

目 次

II 薬学部関係	1～89
1. 赤門の由来	2
2. 東京大学薬学部沿革	3
3. 現勢	17
4. 附属薬用植物園	18
5. 薬学部内共同研究施設	18
6. 東京大学薬学部規則	19
7. 学生注意事項	24
8. 薬学部学務関係予定表	27
9. 授業科目一覧	29
10. 各教室主要研究テーマ・教職員	37
11. その他の研究室等・教職員	65
12. 名誉教授	66
13. 薬学図書館	67
14. 医学図書館	69
15. 東京大学アイソトープ総合センター	70
16. 東京大学薬学部学生自治会規約	70
17. 東京大学大学院薬学系研究科院生自治会規約	73
18. 東京大学薬学部安全委員会規程	75
19. 日本学術振興会特別研究員	76
20. 東京大学受託研究員	78
21. 東京大学特別研究員	78
22. 英訳一覧	79
23. 授業時間割表	81
24. 卒業生の進路状況	89

1. 赤門の由来

東京大学赤門は、もと加賀藩主前田家の江戸上屋敷の御守殿門で、完成したのは文政10年（1827）11月である。この年藩主前田斉泰が11代将軍徳川家斉の第21女浴姫（徳川偕子）と結婚した。これより先文政6年（1823）4月この縁組がきまると、前田家では文政8年（1825）から、御守殿（夫人の屋敷）と朱塗りの御守殿門（夫人専用門）の新築に着手した。というのは当時大名が将軍の娘を夫人に迎えるときには、夫人のために、新たに御守殿と御守殿門（赤門）を建てるのが慣例であったので、前田家もこれにならったのである。これが現在の東京大学赤門の由来である。

東京大学医学部が現在の本郷構内（旧加賀屋敷、当時は文部省用地）へ新築移転したのは明治9年（1876）12月である。これが東京大学が現在の地を占めた最初で、明治17年（1884）他学部が神田一ツ橋からここへ移りはじめるまで、赤門は医学部が専用していたわけである。今日では、赤門は、東京大学の別名にまでなっているが、医学部・薬学部（薬学部の前身は医学部製薬学科）にとっては、とりわけ縁故の深い門である。

赤門は、最初は現在の位置より15m奥にあったのを、明治36年（1903）12月、現在の位置へ修理移転した。大正12年（1923）9月1日の関東大震災によって、本学は大きな損失をうけたが、赤門の損傷は最少にとどまり、大正14年（1925）8月25日から、赤門とその両側の門衛所を修理し、翌年1月6日竣工した。その後また著しく荒れたので、文化財保護委員会の手によって、昭和34年（1959）11月から2ヵ年をついやして改修された。

赤門は、昭和6年（1931）12月14日国宝に、昭和25年（1950）8月重要文化財に指定された。それはこの種の朱塗門として現存するただ一つのものであること、及びその建造物としての高い評価によってである。

2. 東京大学薬学部沿革

明治4年(1871)東京神田和泉町の東校教師としてドイツから招かれたミュルレル、ホフマン両氏は、文部卿に次ぐ地位と教育に関して命令できる権限を与えられた。両氏は医師が患者に投薬する日本古来の医療慣習の危険性を指摘し、ドイツでは医学と薬学は緊密に並進する専門分科で、ドイツ式教育を実施するために、速やかに予科教師と薬学教師の招聘を要請した。明治5年(1872)政府の招きで来任した薬剤師ニーウェルト氏は薬学教授を拒み、3年間附属医院薬局業務に専従した。

一方、文部省医務局長與專齋氏は、人命及び国家経済にかかわる粗悪薬品の輸入防止対策として、ミュルレル氏らに図り、製薬学校創設計画を進めた。明治6年(1873)7月25日付文部省布達で、第一大学区医学校に予科2年本科3年の製薬学科(全寮制)を新設、9月開校となる。これが近代薬学教育研究の源流であり、東京大学薬学部の発端である。

仮教室でドイツ人教師による医・薬学科合同の予科授業が行われた。明治7年(1874)ドイツ留学から帰朝した柴田承桂氏が教授となり、翌8年(1875)薬学専任教師ランガルト氏が着任した。同年9月末に現在の病院外来診療棟の周辺に新築落成した近代式校舎に移った。

明治10年(1877)東京大学創立に伴い、医学部製薬学科と改組する一方、2年制の通学生制度が併設された。飯盛挺造(物理)、熊沢善庵(化学)、大井玄洞(製薬学)、松原新之助(動物、植物)、勝山忠雄(調剤学)の諸氏が通学生(明治15年消滅)及び別科(3年制、13年開校20年消滅)を担当した。

製薬学科本科は明治11年(1878)1回生9名が卒業、製薬士の称号を授与されたが、製薬士は5回生で終わり全員34名に留まった。本科担当のランガルト(製薬化学)、マルチン(生薬、分析)、コルセルト(化学)3氏の任期満了後、オランダ人エイクマン氏が最後の外人教師を務め、明治18年(1885)帰国した。その前年ドイツ留学帰朝の長井長義氏が1年余教鞭をとった。

明治19年(1886)の学制改革に際し、製薬学科廃止の運命に遭遇したが、丹羽藤吉郎助教授の努力で、医科大学薬学科(3年制)に復活した。ドイツ留学を終えた第1回製薬士下山順一郎、丹波敬三の両教授と丹羽藤吉郎助教授の担任で開講し、明治23年(1890)薬学科第1回卒業生5名に薬学士の称号が授与された。

明治26年(1893)の講座制定により、薬学科は生薬学(下山順一郎)、衛生裁判化学(丹波敬三)、薬化学(長井長義)の3講座担任が発令された。明治29年(1896)に現薬学部の南側の仮教室に移り、明治39年(1906)その前通りに竣工した最新式の赤煉瓦造り2階859m²(260坪)の薬学本館に移転した。翌明治40年(1907)に薬品製造学講座(丹羽藤吉郎)が増設された。

大正8年(1919)の学制改革で、医学部薬学科と機構を改めた。大正12年(1922)の関東大震災で、薬学本館も相当の被害を受けたが改築は見送られた。折よく震災前から定員増(20名)による増築計画が、大正12年に実現の運びになり、鉄筋コンクリート建築の地下1階地上2階延1,229m²(372坪)の東館に次いで、大正14年(1925)地下1階地上

2階延1,447㎡(438坪)の西館が本館の両翼に竣工した。

昭和5年(1930)の臓器薬品化学講座新設に先立ち、定員35名に増員され、昭和17年(1942)に薬品分析化学講座が増設された。既に対米英戦に突入し、繰り上げ卒業実施の極限状況下に、薬学研究教育の使命をつらぬき終戦を迎えた。

医学部薬学科は、昭和24年(1949)に成立した新制大学(4年制)に再編成され、教科目の充実化に努めた。昭和26年(1951)に製剤学講座、昭和29年(1954)に薬品作用学講座が増設され、薬学科は8講座を擁するに至った。同年旧臓器薬品化学講座は生理化学講座と改称された。

機熟して昭和33年(1958)4月、医学部薬学科は80余年の来歴に終止符を打ち、東京大学薬学部創設の新生面を開いたのである。

ところで戦前からの懸案であった増築工事は、昭和32年(1957)に至って漸く地下1階地上2階延891㎡(269坪)が増築され、昭和35年(1960)竜岡門通りに面し、新館第1期工事として地下1階地上3階延1,198㎡(362坪)を増築、加えて薬学部の独立を記念し卒業生並びに薬業その他関係諸団体から軽量鉄筋構造の記念講堂225㎡(68坪)が寄付された。

その後施設整備の遂行で、建物も年々増え昭和36、37年(1961~62)学生実習室330㎡(100坪)とR・I研究室113㎡(31坪)が新築され、昭和38年(1963)第2期工事として本館809㎡(245坪)のうち271㎡(82坪)を撤去し、地下1階地上5階延1,769㎡(535坪)が増築された。つづいて昭和39年(1964)41年(1966)の2回に分け、動物飼育室143㎡(43坪)が新築され、又昭和42年(1967)には第3期工事として本館538㎡(163坪)のうち286㎡(86坪)を撤去し、地下1階地上5階正面玄関を備えた延1,393㎡(421坪)が増築された。さらに昭和46年(1971)第4期工事として本館252㎡(76坪)、西館一部273㎡(83坪)を撤去し、地下1階地上6階延1,937㎡(587坪)が増築され、昭和56年(1981)に至り西館1,121㎡(339坪)を撤去し、地下1階地上6階延べ2,337㎡(707坪)が増築された。

平成5年(1993)度末には、学生実習室の跡地に南館が竣工し、教室及び実験室等の延面積は14,578㎡、薬品倉庫延面積159㎡となった。

薬学図書館は、平成8年(1996)10月、南館東側に寄付による独立棟4階建(一部5階)1,226㎡として竣工した。1階は学生ホール、2~3階は図書閲覧室、4階は情報室、研究室等に使用され、5階は保存書庫である。

又附属薬用植物園として千葉市花見川区畑町1479番地に第一試験場3,973㎡(1,204坪)第二試験場2,150㎡(652坪)の土地があり、管理室69㎡(21坪)、第1温室214㎡(65坪)、第2温室68㎡(20坪)、実験及び実習室151㎡(46坪)の施設がある。

昭和33年(1958)薬学部として独立した時には薬学部薬学科(衛生裁判化学、薬化学、生薬学、薬品製造学、生理化学、薬品分析化学、製剤学、薬品作用学の8講座)のみであったが、昭和34年(1959)に製薬化学科が増設されて薬品製造化学講座が薬学科より振替った。その後製薬化学科は昭和35年(1960)に薬品製造工学講座が、昭和36年(1961)には微生物薬品化学講座並びに薬品物理化学講座が、さらに昭和37年(1962)には植物薬品化学講座が増設された。

昭和38年（1963）講座に関する省令により衛生裁判化学講座は衛生化学・裁判化学講座に、生薬学講座は生薬学・植物化学講座に、植物薬品化学講座は薬品合成化学講座に整理改称された。昭和41年（1966）附属薬害研究施設が設置され薬害作用部門が設けられた。昭和42年（1967）には製薬化学科に薬品物理分析学講座が増設された。昭和46年（1971）には附属薬害研究施設に生体異物研究部門が増設された。昭和48年（1973）薬用植物栽培試験場が附属薬用植物園としてその設置を認められた。昭和51年（1976）に附属薬害研究施設が廃止された。平成4年（1992）には製薬化学科に薬品分子機能学講座が増設された。

平成8年（1996）には、従来の講座を学問領域を考慮して再編成し、新しい教育研究分野にも柔軟に対応できる大講座制に移行するとともに、学部で行われるべき教育の多様化と総合化に対応するため、従来の薬学科及び製薬化学科を統合して薬学科1学科とした。

大学院については、昭和40年（1965）4月より従来の化学系研究科が改組されて、薬学、製薬化学の2専門課程をもって薬学系研究科が設置され、さらに昭和51年（1976）4月に生命薬学専門課程が増設された。この専門課程は、毒性薬理学講座（薬害作用部門転換）、生体異物・免疫化学講座（生体異物研究部門転換）、薬品代謝化学講座（新設）の3講座を基幹講座とし、薬学科の衛生化学・裁判化学講座及び製薬化学科の微生物薬品化学講座を協力講座として編成された。なお、昭和62年（1987）大学院規則の改正により、「専門課程」が「専攻」と改称され、平成6年（1994）には相関医薬化学講座が増設された。

また、平成9年（1997）度には、大学院重点化により、分子薬学専攻・機能薬学専攻・生命薬学専攻の3専攻に改組し、新たに遺伝学教室および臨床薬学教室を増設し、平成13年（2001）度には「医薬経済学」寄付講座および「創薬理論科学」寄付講座を設置しさらに平成14年（2002）度には「ファーマコビジネス・イノベーション」寄付講座を開設、平成15年（2003）度には製薬企業との連携により真のサイエンスとしての創薬科学を建設し、日本初の優れた医薬品シーズを発見することを目的とした「創薬科学」連携客員講座を設置した。

平成16年（2004）3月に竜岡門通りに面して、地下1階地上10階7,511㎡（2,276坪）の薬学系総合研究棟が竣工した。

同年4月には、医薬品の有効性と安全性を的確に評価する科学を開発、体系化し、体得する教育を提供することを目的とした「医薬品評価科学」講座を総長裁量により設置、そして、医薬品ライフサイクルマネジメントにおいて指導的役割を果たすべき人材をPreceptorとして排出するための体系的教育システムを構築することを目的とする「医薬品情報学」寄付講座を設置した。

また、創薬基礎研究の推進および創薬研究者養成のため、平成16年（2004）度から、薬学部独自の「産学連携共同研究室」を設け、企業の優れた研究者を客員教員に招聘する制度を創設した。

平成18年（2006）2月には、民間からの寄付金により薬学系総合研究棟Ⅱ期（4,000㎡）が竣工した。

また、同年4月学校教育法・薬剤師法の改正により、従来の薬学科を廃止して、薬科学科（4年制課程）と薬学科（6年制課程）を設置し、臨床分子解析学教室を設置した。な

おこの課程は平成18年度入学者より適用された。

同年4月には、主として社会的視点に立った医薬品ならびにその関連領域のヘルスサービスにおけるあり方、その評価を行うための方法論の研究や政策分析等を目的として、「医薬政策学（東和薬品）」寄付講座を設置した。

平成18年6月にはアカデミアにおける創薬研究を推進することを目的に生物機能制御化合物ライブラリー機構が総長室総括委員会の下に新設された。会計事務等は薬学系研究科で担当することとなった。

平成19年（2007）4月には、「創薬理論科学」寄付講座をさらに発展、充実させるべく新たに「アステラス創薬理論科学」寄付講座を設置した。

平成20年（2008）4月、統合薬学専攻を新設し、蛋白質代謝学教室を設置した。また、この年に薬学部は創立50周年を迎え、4月に記念式典を行い、創立50周年記念誌を発行した。

平成22年（2010）4月、薬学教育制度の変更（平成18年度）に伴い、従来の修士課程を廃止し、新しく4年制学部卒業者を対象とした修士課程薬科学専攻を設置した。また、理論的に機能や現象を理解し、分子の自在構築によって、原子・電子レベルで薬を科学することを目的とした基礎有機化学教室を設置した。

平成23年（2011）4月、事業の進展、施設整備に伴い、生物機能制御化合物ライブラリー機構から創薬オープンイノベーションセンターに改称された。

平成24年（2012）4月、薬学教育制度の変更（平成18年度）に伴い、従来の博士後期課程を廃止し、新しく博士後期課程薬科学専攻（修業年限3年）、薬学博士課程薬学専攻（修業年限4年）を設置した。

また、同年6月には、新しい薬学教育課程における教育・研究体制の充実を目指して、医療薬学高度教育開発センターを設置した。（平成26年4月に、教育組織として6年制薬学科教育課程の更なる充実のため「医療薬学教育センター」に改称した。）

同年10月には、新たに「疾患細胞生物学」寄付講座を開設した。

平成25年10月、ワンストップ創薬共用ファシリティセンターを設置した。

平成27年（2015）4月には、「医薬品情報学」寄付講座をさらに発展、充実させるべく新たに「育薬学」寄付講座を設置した。また、創薬オープンイノベーションセンターは創薬機構に改称された。

平成29年（2017）4月より、ヒト細胞を使った各種創薬評価系を作りその適合性を確立することにより、創薬、医療に貢献することを目的とした「ヒト細胞創薬学」寄付講座を設置するとともに、同年7月に脳神経疾患における疾病発症分子機構の解明を通じ新薬創薬標的分子の同定と画期的創薬アプローチの確立を目指す「脳神経疾患治療学」社会連携講座が設置された。また同年4月に微生物薬品化学教室を免疫・微生物学教室に改称した。

平成30年（2018）10月より、ヒト細胞を利用し化学物質、気体物質の有効性、安全性評価系を確立することを目的とした「化学物質安全性評価システム構築」社会連携講座を設置するとともに、同年11月にICT利活用による医薬品開発と適正使用のイノベーション

における研究を行う「ITヘルスケア」社会連携講座を設置した。

平成31年（2019）4月、大学院に新たな協力講座として細胞分子化学講座（医科学研究所）、発生病態学講座（定量生命科学研究所）、応用免疫学講座（定量生命科学研究所）を設置するとともに、医療薬学教育センターとワンストップ創薬共用ファシリティセンターが東京大学基本組織規則第44条に基づく部局附属施設となった。また、有機反応化学教室を天然物合成化学教室に改称した。

令和2年（2020）4月には、臨床医学において実用的な診断薬となりうるアクティブイタブル蛍光プローブの開発および実用化を目指した「蛍光医療化学」社会連携講座を開設、10月には、標的としたタンパク質を選択的に分解する新しい技術を開発し、その技術を基にした創薬研究を行う事を目的とした「タンパク質分解創薬」社会連携講座を開設した。

令和3年（2021）4月、大学院に新たな協力講座として核酸制御学講座（アイソトープ総合センター）を設置した。

令和4年（2022）4月、難治性の疾患に対する新規の治療法の創出を目指し、人口の高齢化に伴う問題に対して、医療ニーズに応え、社会貢献することを目的とした「分子腫瘍薬学」社会連携講座を開設するとともに、これまで総長室総括委員会の下に設置されていた「創薬機構」が東京大学基本組織規則第44条に基づく部局附属施設となった。

令和4年（2022）4月時点での寄付講座の開設数は2、社会連携講座は4、協力講座は5である。

令和5年（2023）4月、大学院に新たな協力講座として分子神経生物学講座（定量生命科学研究所）を設置した。

令和5年（2023）4月時点での寄付講座の開設数は2、社会連携講座は3、協力講座は6である。

令和6年（2024）4月、大学院に新たな協力講座としてタンパク質病態学講座（医科学研究所）、RNP生命工学講座（定量生命科学研究所）、幹細胞制御創薬講座（医科学研究所）を設置した。

令和6年（2024）4月時点での寄付講座の開設数は2、社会連携講座は3、協力講座は8である。

歴代学部長

石 館 守 三	(昭33. 4. 1～昭35. 3. 31)
伊 藤 四十二	(昭35. 4. 1～昭39. 3. 31)
野 上 寿	(昭39. 4. 1～昭43. 3. 31)
山 田 俊 一	(昭43. 4. 1～昭43. 11. 4)
柴 田 兼 二	(昭43. 11. 5～昭45. 11. 4)
浮 田 忠之進	(昭45. 11. 5～昭47. 4. 25)
水野 傳一 (事務取扱)	(昭47. 4. 25～昭47. 5. 24)
管 孝 男	(昭47. 5. 25～昭49. 5. 24)
高 木 敬次郎	(昭49. 5. 25～昭50. 3. 31)
滝 澤 武 夫	(昭50. 4. 1～昭51. 3. 31)
水 野 傳 一	(昭51. 4. 1～昭54. 3. 31)
野 島 庄 七	(昭54. 4. 1～昭56. 3. 31)
山 田 正 篤	(昭56. 4. 1～昭58. 3. 31)
粕 谷 豊	(昭58. 4. 1～昭60. 3. 31)
福 田 英 臣	(昭60. 4. 1～昭62. 3. 31)
花 野 学	(昭62. 4. 1～平元. 3. 31)
大 澤 利 昭	(平元. 4. 1～平 2. 3. 31)
中 嶋 暉 躬	(平 2. 4. 1～平 4. 3. 31)
廣 部 雅 昭	(平 4. 4. 1～平 6. 3. 31)
古 賀 憲 司	(平 6. 4. 1～平 8. 3. 31)
名 取 俊 二	(平 8. 4. 1～平10. 3. 31)
井 上 圭 三	(平10. 4. 1～平11. 3. 31)
今 井 一 洋	(平11. 4. 1～平13. 3. 31)
桐 野 豊	(平13. 4. 1～平16. 3. 31)
海老塚 豊	(平16. 4. 1～平18. 3. 31)
柴 崎 正 勝	(平18. 4. 1～平20. 3. 31)
杉 山 雄 一	(平20. 4. 1～平22. 3. 31)
長 野 哲 雄	(平22. 4. 1～平24. 3. 31)
堅 田 利 明	(平24. 4. 1～平26. 3. 31)
嶋 田 一 夫	(平26. 4. 1～平28. 3. 31)
新 井 洋 由	(平28. 4. 1～平30. 3. 31)
一 條 秀 憲	(平30. 4. 1～令 2. 3. 31)
船 津 高 志	(令 2. 4. 1～令 4. 3. 31)
三 浦 正 幸	(令 4. 4. 1～令 6. 3. 31)
浦 野 泰 照	(令 6. 4. 1～)

各専門分野教授の変遷

(製薬学科)

明 7. 4. —明11. 5. 教授 柴田 承桂

(薬学科)

明20. 7. 30—明26. 9. 8 教授 下山 順一郎

明20. 7. 30—明26. 9. 8 教授 丹波 慶三

(明治26年 = 1893年講座制定以降現在に至る)

天然物化学教室 (旧生薬学・植物化学講座/昭38生薬学講座を改称)

明26. 9. 9—明45. 2. 12 教授 下山 順一郎

大元. 9. 28—大 7. 2. 11 助教授 朝比奈 泰彦

大 7. 2. 12—昭16. 3. 31 教授 朝比奈 泰彦

昭16. . —昭19. 12. 27 教授 藤田 直市

昭20. 1. —昭23. 4. 教授 浅野 三千三

昭24. 1. 4—昭25. 2. 9 助教授 柴田 兼二

昭25. 2. 10—昭51. 4. 1 教授 柴田 兼二

昭51. 4. 1—平 7. 3. 31 教授 三川 潮

平 7. 8. 1—平21. 3. 31 教授 海老塚 豊

平21. 5. 1— 教授 阿部 郁朗

衛生化学教室 (旧衛生化学・裁判化学講座/昭38衛生裁判化学講座を改称)

明26. 9. 9—大 7. 1. 10 教授 丹波 敬三

大 7. 2. 2—大12. 12. 12 教授 近藤 平三郎

大12. 12. 12—大13. 8. 助教授 服部 健三

大13. 8. —昭17. 3. 25 教授 服部 健三

昭17. 5. 4—昭32. 3. 31 教授 秋谷 七郎

昭32. 4. —昭47. 4. 25 教授 浮田 忠之進

昭47. 10. 1—昭48. 10. 15 教授 梶 昭

昭48. 10. 15—昭49. 4. 30 教授(併) 大澤 利昭

昭49. 5. 1—昭49. 9. 30 教授(併) 野島 庄七

昭49. 10. 1—昭60. 3. 31 教授 野島 庄七

昭60. 4. 1—平12. 3. 31 教授 井上 圭三

平12. 4. 1—平31. 3. 31 教授 新井 洋由

令 2. 4. 1— 教授 青木 淳賢

薬化学教室 (旧薬化学講座)

明26. 9. 11—明26. 10. 27 講師 長井 長義

明26. 10. 28—大10. 10. 8 教授 長井 長義

大10. 10. 12—昭12. 12. 11 教授 近藤 平三郎

昭13. 3. 16—昭34. 3. 21 教授 落合 英二

昭34. 4. 1—昭58. 3. 31 教授 岡本 敏彦
 昭58. 4. 1—平 9. 6. 30 教授 首藤 紘一
 平 9. 7. 1—平12. 3. 31 教授(併) 首藤 紘一
 平13. 4. 1—令 7. 3. 31 教授 大和田 智彦

天然物合成化学教室 (平31有機反応化学教室を改称/旧薬品製造化学講座/

昭35薬品製造学講座を改称)

明40. 5. 20—大11. 5. 10 教授 丹羽 藤吉郎
 大11. 8. 17—昭12. 3. 31 教授 慶松 勝左衛門
 昭12. 4. 21—昭34. 3. 31 教授 菅澤 重彦
 昭34. 4. 10—昭51. 4. 1 教授 山田 俊一
 昭51. 4. 1—平10. 3. 31 教授 古賀 憲司
 平10. 5. 1—平19. 3. 31 教授 小林 修
 平19. 4. 1— 教授 井上 将行

生理化学教室 (旧生理化学講座/昭29臓器薬品化学講座を改称)

昭 5. 3. 1—昭23. 3. 教授 緒方 章
 昭23. 12. 20—昭44. 3. 31 教授 伊藤 四十二
 昭44. 9. 1—昭61. 3. 31 教授 山田 正篤
 昭61. 8. 16—平 5. 3. 31 教授 宇井 理生
 平 5. 7. 1—平29. 3. 31 教授 堅田 利明
 平30. 4. 1— 教授 北川 大樹

生体分析化学教室 (旧薬品分析化学講座)

昭17. 1. 20—昭36. 3. 31 教授 石館 守三
 昭36. 4. 1—昭52. 5. 31 教授 田村 善藏
 昭52. 6. 1—昭58. 3. 31 教授(併) 田村 善藏
 昭58. 10. 1—平 5. 3. 31 教授 中嶋 暉躬
 平 5. 8. 1—平15. 3. 31 教授 今井 一洋
 平16. 3. 1—令 6. 3. 31 教授 船津 高志
 平31. 4. 1—令 6. 3. 31 客員教授 木村 廣道

分子薬物動態学教室 (旧製剤設計学教室/平 8 製剤学講座を改称)

昭26. 7. 16—昭46. 3. 31 教授 野上 寿
 昭46. 4. 1—平 3. 3. 31 教授 花野 学
 平 3. 10. 16—平24. 3. 31 教授 杉山 雄一
 平20. 4. 1—平22. 3. 31 特任教授 池田 敏彦
 平24. 5. 1— 教授 楠原 洋之

薬品作用学教室 (旧薬品作用学講座)

昭29. 9. 1—昭32. . 教授 熊谷 洋
 昭32. 11. 1—昭51. 4. 1 教授 高木 敬次郎
 昭51. 4. 1—昭61. 3. 31 教授 粕谷 豊

昭61. 6. 1—平 9. 3. 31 教授 齋 藤 洋
 平 9. 5. 16—平26. 3. 31 教授 松 木 則 夫
 平26. 4. 1— 教授 池 谷 裕 二
 平29. 1. 16—平30. 3. 31 特任教授 關 野 祐 子

蛋白質代謝学教室（平19神経生物物理学教室を改称／旧薬品製造工学講座）

昭35. 10. 1—昭51. 4. 1 教授 管 孝 男
 昭51. 4. 1—昭52. 3. 31 教授（併）清 水 博
 昭52. 4. 1—平 5. 3. 31 教授 清 水 博
 平 5. 9. 1—平18. 3. 31 教授 桐 野 豊
 平19. 4. 1—平19. 11. 30 教授（兼）松 木 則 夫
 平19. 12. 1— 教授 村 田 茂 穂

免疫・微生物学教室（平29微生物薬品化学教室を改称／平18発生細胞化学教室を改称／
 旧微生物薬品化学講座）

昭36. 4. 1—昭55. 3. 31 教授 水 野 傳 一
 昭55. 4. 1—平11. 3. 31 教授 名 取 俊 二
 平11. 6. 1—平28. 3. 31 教授 関 水 和 久
 平28. 10. 1— 教授 堀 昌 平

生命物理化学教室（旧薬品物理化学講座）

昭36. 4. 1—昭61. 3. 31 教授 坪 井 正 道
 昭61. 6. 1—平 6. 3. 31 教授 荒 田 洋 治
 平 6. 5. 16—令 2. 3. 31 教授 嶋 田 一 夫
 令 3. 10. 1— 教授 竹 内 恒

有機合成化学教室（旧薬品合成化学講座／昭38植物薬品化学講座を改称）

昭37. 12. 1—昭38. 3. 31 教授 藤 田 路 一
 昭39. 5. 1—昭52. 4. 1 教授 滝 澤 武 夫
 昭52. 10. 1—平 3. 3. 31 教授 大 野 雅 二
 平 3. 7. 1—平 3. 9. 30 教授（併）柴 崎 正 勝
 平 3. 10. 1—平22. 3. 31 教授 柴 崎 正 勝
 平22. 4. 1— 教授 金 井 求

細胞情報学教室（旧薬効安全性学教室／平 9 毒性薬理学講座を改称／

昭51附属薬害研究施設薬害作用部門転換）

昭41. 11. 1—昭51. 3. 31 教授 粕 谷 豊
 昭52. 4. 1—平元. 3. 31 教授 福 田 英 臣
 平元. 7. 1—平13. 6. 30 教授 長 尾 拓
 平14. 6. 1—平14. 8. 31 教授（併）一 條 秀 憲
 平14. 9. 1—令 6. 3. 31 教授 一 條 秀 憲

蛋白構造生物学教室（旧薬品物理分析学講座）

昭42. 7. 1—昭63. 3. 31 教授 飯 高 洋 一

- 昭63.10. 1—平22. 3.31 教授 佐藤 能雅
 平22. 5. 1— 教授 清水 敏之
- 分子生物学教室 (平26生体異物化学教室を改称/旧生体異物・免疫化学講座/
 昭51附属薬害研究施設生体異物研究部門転換)
- 昭46. 4. 1—平 3. 3.31 教授 大澤 利昭
 平 3. 7.15—平25. 3.31 教授 入村 達郎
 平25.10. 1— 教授 後藤 由季子
- 薬品代謝化学教室 (旧薬品代謝化学講座)
- 昭51.11. 1—平 8. 3.31 教授 廣部 雅昭
 平 8. 5.16—平25. 3.31 教授 長野 哲雄
 平25.10. 1—平26. 5.31 教授(兼) 浦野 泰照
 平26. 6. 1— 教授 浦野 泰照
- 遺伝学教室 (旧薬品分子機能学講座)
- 平 5. 7. 1—平 6. 3.31 教授 長野 晃三
 平 8. 4. 1—平12. 9.30 教授 武藤 誠
 平12.10. 1—平13. 3.31 教授(併) 武藤 誠
 平15. 4. 1—平 7. 3.31 教授 三浦 正幸
- 天然物合成化学教室 (旧相關医薬化学講座)
- 平 7. 8.16—平24.10.31 教授 福山 透
 平24.11. 2—平25. 3.31 教授(兼) 福山 透
- 機能病態学教室 (平27臨床薬学教室を改称)
- 平 8. 8.16—平10. 8.31 助教授 岩坪 威
 平10. 9. 1—平19. 9.30 教授 岩坪 威
 平19.10. 1—平26. 3.31 教授(兼) 岩坪 威
 平26. 4. 1— 教授 富田 泰輔
 平29.11. 1— 客員教授 鳥居 慎一
- 細胞生化学教室
- 平 9.12. 1—平11. 3.31 助教授 山本 一夫
- 医薬品評価科学教室
- 平17. 2. 1—平24. 3.31 教授(兼) 杉山 雄一
 平18.11. 1— 客員教授 藤原 康弘
 平24. 5. 1—平26. 3.31 教授(兼) 松木 則夫
 平26. 4. 1— 准教授 小野 俊介
- 臨床分子解析学教室
- 平18. 7. 1—平19. 3.31 助教授 三田 智文
 平19. 4. 1—平26. 6.30 准教授 三田 智文
 平26. 7. 1—平27. 3.31 特任教授(兼) 三田 智文
- 基礎有機化学教室

平22. 4. 1— 高次生命情報学教室 令 6.12. 1—	教授 内山真伸 准教授 河口理紗
---------------------------------------	---------------------

〔附属施設〕

薬用植物園

昭48. 4. 12—昭51. 4. 1	園長(併)柴田 兼二
昭51. 4. 2—昭58. 4. 1	園長(併)岡本 敏彦
昭58. 4. 1—昭60. 3. 31	園長(併)粕谷 豊
昭60. 4. 1—昭62. 3. 31	園長(併)福田 英臣
昭62. 4. 1—平元. 3. 31	園長(併)花野 学
平元. 4. 1—平 2. 3. 31	園長(併)大澤 利昭
平 2. 4. 1—平 4. 3. 31	園長(併)中嶋 暉躬
平 4. 4. 1—平 6. 3. 31	園長(併)廣部 雅昭
平 6. 4. 1—平 8. 3. 31	園長(併)古賀 憲司
平 8. 4. 1—平10. 3. 31	園長(併)名取 俊二
平10. 4. 1—平11. 3. 31	園長(併)井上 圭三
平11. 4. 1—平13. 3. 31	園長(併)今井 一洋
平13. 4. 1—平16. 3. 31	園長(併)桐野 豊
平16. 4. 1—平18. 3. 31	園長(兼)海老塚 豊
平18. 4. 1—平20. 3. 31	園長(兼)柴崎 正勝
平20. 4. 1—平22. 3. 31	園長(兼)杉山 雄一
平22. 4. 1—平24. 3. 31	園長(兼)長野 哲雄
平24. 4. 1—平26. 3. 31	園長(兼)堅田 利明
平26. 4. 1—平28. 3. 31	園長(兼)嶋田 一夫
平28. 4. 1—平30. 3. 31	園長(兼)新井 洋由
平30. 4. 1—令 2. 3. 31	園長(兼)一條 秀憲
令 2. 4. 1—令 4. 3. 31	園長(兼)船津 高志
令 4. 4. 1—令 6. 3. 31	園長(兼)三浦 正幸
令 6. 4. 1—	園長(兼)浦野 泰照

医療薬学教育センター

平31. 4. 1—令 2. 3. 31	センター長・教授(兼)一條 秀憲
平31. 4. 1—令 6. 3. 31	特任教授 三田 智文
令 2. 4. 1—令 4. 3. 31	センター長・教授(兼)船津 高志
令 2. 4. 1—令 3. 3. 31	客員教授 津谷 喜一郎
令 4. 4. 1—令 6. 3. 31	センター長・教授(兼)三浦 正幸
令 6. 4. 1—	センター長・教授(兼)浦野 泰照

令 6. 4. 1—	特任教授 細 野 浩 之
ワンストップ創薬共用ファシリティセンター	
平31. 4. 1—	センター長・教授(兼) 村 田 茂 穂
平31. 4. 1—令 4. 6. 30	准 教 授 滝 田 良
創薬機構	
令 4. 4. 1—令 6. 3. 31	機構長・教授(兼) 一 條 秀 憲
令 4. 4. 1—	特 任 教 授 小 島 宏 達
令 4. 4. 1—令 5. 3. 31	特 任 教 授 岡 部 隆 義
令 4. 4. 1—令 6. 3. 31	特 任 教 授 宮 地 弘 幸
令 4. 4. 1—令 6. 3. 31	客 員 教 授 樽 林 陽 一
令 5. 4. 1—	客 員 教 授 岡 部 隆 義
令 6. 4. 1—	機構長・教授(兼) 浦 野 泰 照

〔連携客員講座〕

創薬科学

平15. 6. 1—平20. 3. 31	客員教授 柳 澤 宏 明
平15. 6. 1—平20. 3. 31	客員教授 小 池 博 之
平20. 4. 1—平22. 3. 31	客員教授(兼) 山 西 嘉 晴
平20. 5. 1—平27. 3. 31	客員教授 世 永 雅 弘

〔寄付講座〕

医薬分子設計学講座

平 2. 4. 1—平 6. 3. 31	客員助教授 板 井 昭 子
平 6. 4. 1—平 7. 3. 30	客員教授 板 井 昭 子

機能病態学講座

平 4. 10. 1—平 8. 8. 15	客員助教授 岩 坪 威
-----------------------	-------------

創薬理論科学講座

平13. 4. 1—平14. 3. 31	客員教授 藤 野 政 彦
平14. 4. 1—平18. 3. 31	客員教授 夏 苺 英 昭
平18. 4. 1—平19. 3. 31	客員教授 白 石 充

医薬経済学講座

平13. 4. 1—平18. 3. 31	客員教授 津 谷 喜一郎
----------------------	--------------

ファーマコビジネス・イノベーション講座

平14. 9. 1—平20. 3. 31	客員教授 木 村 廣 道
平20. 4. 1—平28. 3. 31	特任教授 木 村 廣 道
平28. 4. 1—平31. 3. 31	客員教授 木 村 廣 道
平28. 7. 1—平29. 3. 31	特任准教授 柴 山 創太郎
平29. 4. 1—平30. 10. 31	特任教授 今 村 恭 子

医薬品情報学講座

平16. 10. 1—平17. 10. 31	客員教授	澤田	康文
平17. 11. 1—平20. 3. 31	客員教授(兼)	澤田	康文
平20. 4. 1—平27. 3. 31	特任教授	澤田	康文
医薬政策学(東和薬品)講座			
平18. 4. 1—平20. 3. 31	客員教授	津谷	喜一郎
平20. 4. 1—平23. 3. 31	特任教授	津谷	喜一郎
アステラス創薬理論科学講座			
平19. 4. 1—平20. 3. 31	客員教授	竹中	登一
平19. 4. 1—平20. 3. 31	客員教授	磯貝	隆夫
平20. 4. 1—平24. 3. 31	特任教授	竹中	登一
平20. 4. 1—平24. 3. 31	特任教授	磯貝	隆夫
医薬政策学講座			
平23. 4. 1—平27. 3. 31	特任教授	津谷	喜一郎
平27. 4. 1—平31. 1. 31	客員教授	津谷	喜一郎
平27. 10. 1—平31. 1. 31	特任准教授	五十嵐	中
平31. 2. 1—令 2. 3. 31	教授(兼)	一條	秀憲
平31. 2. 1—令 6. 3. 31	客員准教授	五十嵐	中
令 2. 4. 1—令 4. 3. 31	教授(兼)	船津	高志
令 4. 4. 1—令 6. 3. 31	教授(兼)	三浦	正幸
令 6. 4. 1—	教授(兼)	浦野	泰照
疾患細胞生物学			
平24. 10. 1—平29. 9. 30	教授(兼)	新井	洋由
平24. 11. 1—平29. 9. 30	特任准教授	田口	友彦
育薬学講座			
平27. 4. 1—平28. 3. 31	特任教授	澤田	康文
平28. 4. 1—令 7. 3. 31	客員教授	澤田	康文
平29. 4. 1—平30. 3. 31	特任准教授	堀	里子
ヒト細胞創薬学			
平29. 6. 1—平29. 9. 30	客員教授	澤田	光平
平29. 10. 1—平30. 3. 31	特任教授	澤田	光平
平30. 4. 1—令 4. 3. 31	特任教授	關野	祐子
平30. 4. 1—平30. 9. 30	客員教授	澤田	光平
平31. 4. 1—令 4. 3. 31	客員教授(兼)	澤田	光平
〔社会連携講座〕			
脳神経疾患治療学			
平29. 7. 1—令 4. 6. 30	教授(兼)	富田	泰輔
平29. 9. 1—令 3. 6. 30	特任講師	伊藤	弦太

化学物質安全性評価システム構築

平30.10. 1—令 3. 9.30 教授（兼）池谷 裕二
 平30.10. 1—令 3. 9.30 客員教授 澤田 光平
 平30.10. 1—令 3. 9.30 特任准教授 竹内 春樹

ITヘルスケア

平30.11. 1—令 3. 8.31 特任教授 今村 恭子
 平31. 2. 1—令 2. 3.31 客員教授 津谷 喜一郎

蛍光医療化学

令 2. 4. 1—令 6. 3.31 教授（兼）浦野 泰照

タンパク質分解創薬

令 2.10. 1— 教授（兼）村田 茂穂
 令 2.10. 1—令 7. 3.31 特任教授 内藤 幹彦

分子薬物腫瘍学

令 4. 4. 1— 教授（兼）堀 昌平
 令 4. 4. 1— 特任准教授 榎本 豊

医療政策・公衆衛生学

令 6. 4. 1— 特任准教授 五十嵐 中

〔産学連携共同研究室〕

(塩野義)

平16. 6. 1—平18.11.30 客員教授 勝浦 五郎
 平19. 4. 1—平22. 3.31 客員（講師）安酸 達郎
 平21.12. 1—平25. 3.31 客員教授 吉岡 健
 平25. 6. 1—平26. 3.31 客員教授 中野 亨
 平28. 6. 1—令 3. 3.31 客員教授 武本 浩

(エーザイ)

平18. 7. 1—平22. 3.31 客員教授 山西 嘉晴

(アステラス)

平19. 4. 1—平22. 3.31 客員（講師）宮 寄 洋二

3. 現 勢

学部創設年月日 昭和33年4月1日

薬学系研究科・薬学部土地面積	8,554m ²
本館	8,896m ²
南館	4,734m ²
資料館	1,263m ²
総合研究棟	11,453m ²
教育研究棟	260m ²
先端創薬棟	337m ²
薬品倉庫	133m ²
附属薬用植物園土地面積	6,123m ²
(内訳) 第一試験場	3,973m ²
第二試験場	2,150m ²
管 理 棟	69m ²
実験及実習室	151m ²
第1温室	214m ²
第2温室	68m ²
ボイラー室	3m ²
機械室	10m ²
職 員 (令和7年3月1日現在)	
教 授	19名
准 教 授	16名
講 師	5名
助 教	28名
事務系職員	19名
技術系職員	1名

4. 附属薬用植物園

(千葉県花見川区畑町1479番地 電話 043-273-7413)

薬用植物園は総武線新検見川駅から北方へ徒歩約25分、本学検見川総合運動場に隣接して設置されている。昭和48年正式に薬学部附属施設として認可されて以来、6,123㎡(1,855坪)の敷地には学生教育上の薬用植物標本園が設けられているほか、系統保存や育種栽培研究、内外の薬用植物蒐集栽培、成分の化学的、薬理学的、生合成的、植物生理学的並びに生薬学的研究や薬用植物管理上の諸問題等の研究を行うことを目的に、温室、管理棟および実験棟が設けられている。現在栽培されている植物は55科250余種に及ぶ。

毎年3年生の夏学期に本植物園で実習が行われる。

昭和57年度から本郷構内に研究室が置かれた。

なお、本学総合研究博物館(本郷構内)の1階には薬学資料室(内線22842)があり主として生薬標本、薬用植物の標本が管理保存されている。

5. 薬学部内共同研究施設

施 設 名	所 在 場 所
動 物 飼 育 室	本 館 ・ 南 館 地 階
ワンストップ創薬共用ファシリティセンター	南 館 3 階
N M R 室	総 合 研 究 棟 地 階

6. 東京大学薬学部規則

制定	昭33. 4. 22		
改正	昭33. 5. 20	昭35. 6. 21	昭39. 3. 17
	昭41. 1. 1	昭44. 12. 1	昭46. 10. 21
	昭47. 11. 21	昭51. 11. 10	昭53. 4. 1
	昭54. 4. 1	昭59. 4. 1	昭62. 4. 1
	平 2. 4. 1	平 2. 10. 1	平 3. 4. 1
	平 4. 4. 1	平 7. 4. 1	平 8. 3. 19
	平 9. 4. 1	平10. 4. 1	平12. 4. 1
	平13. 4. 1	平14. 3. 29	平15. 4. 1
	平16. 4. 1	平17. 4. 1	平18. 4. 1
	平19. 4. 1	平20. 4. 1	平22. 4. 1
	平24. 4. 1	平26. 4. 1	平27. 4. 1
	平28. 4. 1	令 2. 4. 1	令 3. 12. 1
	令 5. 9. 25	令 6. 4. 1	

(目的)

第1条 この規則は、東京大学学部通則（以下「学部通則」という。）中、各学部において定めるように規定されている事項及び東京大学薬学部（以下「本学部」という。）において必要と認める事項について定めることを目的とする。

(教育研究上の目的)

第1条の2 薬学は、医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質及びその生体との相互作用を対象とする学問体系である。本学部は創薬科学及び基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育研究の目的とする。

2. 各学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、別に定める。

(学科)

第2条 本学部に、次の学科を置く。

薬科学科

薬学科

(進学の要件)

第3条 教養学部から本学部に進学することができる学生は、教養学部において所定の授業科目を履修し、その試験に合格した者とする。

(学期)

第4条 学期は、学部通則第4条第2項及び第3項により別に定められるところによる。

(教育課程)

第5条 学生は、別表に定める必修科目及び選択科目を履修しなければならない。

2. 授業科目の配置及び授業時間は、教授会の議を経て定め、あらかじめ発表する。

(履修科目の届出)

第6条 学生は、每学期履修しようとする授業科目を所定の期日までに、本学部長に届け出なければならない。

(長期履修学生制度)

第6条の2 学部通則第2条第2項に定めるところにより、学生が修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、教授会の議を経て、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項に定めるもののほか、長期履修学生の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

(他学部科目の履修)

第7条 学生は、他の学部及びグローバル教育センターの授業科目を履修することができる。

(試験)

第8条 試験は、学期毎に行う。ただし、実習等の科目については、レポート、出席日数、修得成果等をもって試験に代えることができる。

2 試験の期日は、あらかじめ発表する。

(試験成績の評点)

第9条 試験成績の評点は、優上、優、良、可、不可の5等とし、優上、優、良、可を合格、不可を不合格とする。

2 学部通則第14条の2、及び第14条の3及び第16条の2の定めるところにより、外国の大学において履修した科目及び外国の大学が行う通信教育において履修した科目の試験成績の評点は、前項の例によるほか、合格又は不合格の評点によることができる。

(卒業)

第10条 学部通則第26条及び第27条の定めるところにより、本学部を卒業して学士(薬科学)又は学士(薬学)の学位を得るためには、学部通則第3条に定める在学期間中に、別表に定める授業科目を履修し、その試験に合格しなければならない。

(再入学、後期課程への入学及び転学部)

第11条 学部通則第9条及び第10条に規定する再入学若しくは後期課程への入学又は転学部を志願する者の取扱いについては、教授会の議を経て別に定める。

(既に修得した授業科目の取扱い等)

第12条 前条の規定により入学した学生の授業科目及び単位数の取扱い並びに在学期間及び在学年限については、教授会の議を経て別に定める。

(研究生及び聴講生)

第13条 学部通則第10章及び第11章に規定する研究生及び聴講生の取扱いについては、教授会の議を経て別に定める。

(補則)

第14条 この規則に定めるもののほか、本学部における教育課程、試験、進学、入学及び卒業等に関し必要な事項は、教授会の議を経て定める。

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年3月31日以前に本学部に進学又は入学した者及び前期課程に入学した者については、改正後の東京大学薬学部規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 改正後の薬学科又は薬科学科については、平成20年4月1日以後から進学又は入学することができるものとする。
- 4 この改正に伴う経過措置は、別に定める。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 この改正に伴う経過措置は、別に定める。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成27年3月31日以前に本学部に進学又は入学した者については、改正後の東京大学薬学部規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日以前に本学部に進学又は入学した者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和2年3月31日以前に本学部に進学又は入学した者については、改正後の別表の規

定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この規則は、令和3年12月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和5年9月25日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和6年3月31日以前に本学部に進学又は入学した者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表（第5条、第10条関係）

科 目	単位数	薬科学科		薬学科	
		必修	選択	必修	選択
薬学概論	1	○		○	
有機化学 I	1	○		○	
有機化学 II	1	○		○	
有機化学 III	1	○		○	
有機化学 IV	1	○		○	
有機化学 V	1	○		○	
有機化学 VI	1	○		○	
物理化学 I	1	○		○	
物理化学 II	1	○		○	
物理化学 III	1	○		○	
分析化学 I	1	○		○	
分子生物学	1	○		○	
細胞生物学	1	○		○	
機能生物学	1	○		○	
機能形態学	1	○		○	
薬理学 I	1	○		○	
薬理学 II	1	○		○	
臨床薬理学	1			○	
医薬品安全性学	1		○	○	
薬物動態制御学	1	○		○	
製剤設計学	1		○	○	
医療薬学	1	○		○	

医薬品情報学	1		○	○	
放射化学	1	○		○	
病理学	1	○		○	
がん細胞生物学・バイオ医薬品	1		○		○
免疫学	1		○		○
微生物学・化学療法学	1		○	○	
医薬化学Ⅰ	1	○			○
医薬化学Ⅱ	1	○			○
医薬化学Ⅲ	1	○			
天然物化学	1		○	○	
構造分子薬学	1		○		
衛生化学	1		○	○	
分析化学Ⅱ	1	○		○	
生物物理学	1		○		○
分子生理化学	1		○		○
発生遺伝学	1		○		○
創薬科学	1	○			
生物統計学	1		○		○
公衆衛生学	1		○	○	
医薬品評価科学	1		○	○	
薬事法・特許法	1		○	○	
疾患代謝学	1		○	○	
薬学特別講義	1		○	○	
インタラクティブ有機化学	1		○		○
薬学実習Ⅰ	5	○		○	
薬学実習Ⅱ	3	○		○	
薬学実習Ⅲ	3	○		○	
薬学実習Ⅳ	5	○		○	
薬学実習Ⅴ	3	○		○	
薬学実習Ⅵ	20			○	
薬学実務実習Ⅰ	1	○		○	
薬学実務実習Ⅱ	4			○	
薬学実務実習Ⅲ	10			○	
薬学実務実習Ⅳ	10			○	
薬学卒業実習	20	○		○	
卒業に必要な単位数		66	14	118	5
		80		123	

7. 学生注意事項

1. 授業科目の履修について（薬学部規則第5・6・7条）

- (1) 授業科目の履修については、東京大学薬学部規則の別表を参照の上、授業時間割表をよく検討して決めてください。
- (2) 履修登録（他学部履修含む）は指定された期間内にUTASで行ってください。

2. 単位の修得について（薬学部規則第5・7・8・9・10条）

- (1) 他学部の科目を履修しても、卒業に要する選択科目の単位数には算入しません。
- (2) 成績の基準は次の通りです。

優上（A+）	100～90
優（A）	89～80
良（B）	79～65
可（C）	64～50
不可（D）	49～0

3. 薬学部における授業科目の成績評価に関する説明の取扱い

- (1) 学生は、履修した授業科目の成績評価に関し、明らかにそれが授業担当教員の誤りだと思われるなどの疑義が生じた場合には、成績の通知を受けてから1か月以内に教務チームに問い合わせができるものとする。
- (2) 問い合わせがあった場合、教務チームより、授業担当教員、教務委員長へ確認を行い、当該学生に回答をする。

4. 薬学科進級基準について

- (1) 薬学科における4年次から5年次への進級基準は以下のとおりです。
原則として、「薬学実務実習Ⅱ、薬学実務実習Ⅲ、薬学実務実習Ⅳ、薬学実習Ⅵ、薬学卒業実習」以外の、卒業に必要な単位を修得していること。
- (2) 薬学科における5年次から6年次への進級基準は以下のとおりです。
原則として、「薬学卒業実習」以外の、卒業に必要な単位を修得していること。

5. 休学、復学及び退学願について

休学、復学及び退学を願い出る場合には、所定の様式を教務チームに提出してください。

6. 住所、連絡先等の変更について

現住所、電話（携帯電話含む）、メールアドレスを変更した場合は、UTASの登録内容を修正してください。また、修正の際には「12. 教務チームから学生への連絡について」の内容にご留意ください。

保護者等の連絡先変更については、所定の様式により教務チームに届け出てください。

7. 姓名の変更について

改姓または改名した場合には、所定の様式により教務チームに届け出てください。

8. 証明書の発行について

- (1) 学割証、在学証明書、成績証明書（薬学部および教養学部）、卒業見込証明書の発行は本館1階に設置された自動発行機で「共通ID（学生証右下の下10桁）」と「暗証番号」を入力することにより発行できます。
- (2) 上記以外の証明書は、交付希望日の前日までに教務チームへ請求してください。その際には学生証が必要になります。

9. 事務部窓口業務について

- (1) 事務部窓口業務時間は、午前9時から午後5時までです。
- (2) 事務部窓口業務の休業は、次のとおりです。
 - ① 東京大学学部通則第5条第1項第1～3号〔土曜日、日曜日及び祝祭日〕
 - ② 年末年始
 - ③ 五月祭の開催期間中
 - ④ 大学入学共通テスト、東京大学入学者選抜第二次学力試験（前期日程）、薬学系研究科選抜試験の前日の午後および当日全日
 - ⑤ その他

10. 掲示について

UTAS掲示版の他に、本学部掲示場は南講義室前の廊下に設けてあります。授業・厚生その他学務に関することは掲示により周知しますので常に注意してください。イベントポスター等は西講義室前の掲示板に掲示しています。なお、諸手続事項のうち、あらかじめ決定または予定されている事項については、本学部便覧「9. 薬学部学務関係予定表」に記載してありますので、熟読のうえ手続に遺漏がないよう注意してください。

11. 薬学部ホームページについて

授業時間割や、休講などの授業変更情報等は薬学部HPでも見ることができます。

- <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/> → 在学生の方へ>学部学生の方へ

12. 教務チームから学生への連絡について

休講や試験等の授業に関することはUTAS掲示板または南講義室前の掲示板（一部は薬学部HPにも掲載）にてお知らせします。ただし、緊急の場合や、個別に連絡を取る必要がある場合等は、UTASに登録されたメールアドレス、電話番号へ直接連絡をすることもあります。教務からの連絡は以下のメールアドレス、電話番号を使いますので、特にメールアドレスについては、迷惑メール対策のフィルターによってメールが届かないことのないよう、設定を確認してください。

- メールアドレス：kyoumu@mol.f.u-tokyo.ac.jp

・電話番号：03-5841-4727、4703、4704

13. 欠席連絡について

授業を欠席する場合に事前連絡は不要です。実習を欠席する場合は、欠席する日の実習担当教室へ事前に連絡をしてください。(各教室の連絡先は「11. 各教室主要研究テーマ・教職員」参照)ただし、各授業・実習のガイダンスで別の指示があった場合は、その指示に従ってください。

14. 就職情報について

薬学図書館の1階に求人票や就職情報誌、就職に関する掲示・チラシを設置している「就職コーナー」があります。

15. 各種相談所について

なんでも相談コーナー	プレハブ研究A棟1階	03-5841-7867・0786
	http://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/nsc/	
ピアサポートルーム	プレハブ研究A棟2階	080-9410-0093
	http://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/psr/	
コミュニケーション・サポートルーム	プレハブ研究A棟	03-5841-0839
	http://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/csr/	
学生相談所（本郷）	プレハブ研究A棟	03-5841-2516
	http://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/scc/	
ハラスメント相談所	医学部1号館1階 S107	03-5841-2233
	http://har.u-tokyo.ac.jp/	
キャリアサポート室	学生支援センターモール階（B1F）	03-5841-2650
	https://www.careersupport.adm.u-tokyo.ac.jp/	
バリアフリー支援室	学生支援センター（御殿下記念館北側）	03-5841-1715
	http://ds.adm.u-tokyo.ac.jp/	
精神保健支援室（本郷）	本郷 保健センター精神科	03-5841-2578
	http://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/mhs/	

8. 薬学部学務関係日程表（予定）

月	日	摘 要	(*は教務窓口)
4	1	* 進入学手続き	} 便覧等配付
	1	* 進級手続	
	1	* 研究生入学・期間延長手続	
	1	* 聴講生入学手続	
	2	進入学者進学式・ガイダンス〔オンライン〕	
	4	授業開始 S1ターム	
	4~18	履修登録期間 S1ターム	
	21~25	履修登録訂正期間 S1ターム	
	上旬	前期授業料延納・分納・免除願書受付〔奨学厚生課奨学チーム〕	
	〃	日本学生支援機構願書・奨学生登録用紙配付	
	11	東京大学記念日・東京大学入学式	
	19~26	* 聴講生入学願書配付（10月入学）	
	中旬~6月	定期健康診断〔保健センター〕	
	5	7~21	* 聴講生入学願書受付（10月入学）
16		薬用植物園見学（薬学実習Ⅱ）〔検見川薬用植物園〕	
17		陸上運動会〔検見川総合運動場〕	
24~25		五月祭	
30		授業終了 S1ターム	
6		2~3	修了試験 S1ターム
	4	授業開始 S2ターム	
	4~17	履修登録期間 S2ターム	
	18~24	履修登録訂正期間 S2ターム	
	中旬頃	薬学系研究科入学願書受付	
	30	成績発表 S1ターム	
	7	23	授業終了 S2ターム
28~29		修了試験 S2ターム	
下旬		* 後期授業料延納・分納・免除願書配付	
下旬		CBT体験受験	
8	7~8	薬学系研究科入学試験	
	21	成績発表 S2ターム	
	21	薬学系研究科修士課程・薬学博士課程入学試験 合格者発表	
9	27	* 聴講生入学手続（聴講生証を配付）	
	30	進学内定者ガイダンス（予定）	
	下旬	後期授業料延納・分納・免除願書受付〔奨学厚生課奨学チーム〕	

10	2	授業開始 A1ターム
	2～15	履修登録期間 A1ターム
	16～22	履修登録訂正期間 A1ターム
	24	第62回水上運動会〔戸田ボートコース〕
11	上旬	* 薬剤師国家試験願書配付
	20	授業終了 A1ターム
	25～27	修了試験 A1ターム
	28	授業開始 A2ターム
12	28～12/11	履修登録期間 A2ターム
	上旬	* 薬剤師国家試験願書受付
	8	薬学科卒業研究発表
	12～18	履修登録訂正期間 A2ターム
1	19	成績発表 A1ターム
	27～1/4	事務部窓口休止
	17～18	大学入学共通テスト ※登校禁止
	16～30	* 研究生入学・期間延長願書配付
	16～30	* 聴講生入学願書配付（4月入学）
	20	CBT本試験
	27	OSCE本試験
2	26	授業終了 A2ターム
	29～2/9	修了試験 A2ターム
	6～20	* 研究生入学・期間延長願書受付
	6～20	* 聴講生入学願書受付（4月入学）
3	中旬	* 前期授業料延納・分納・免除願書配付
	25～26	東京大学前期日程入学試験 ※登校禁止
	下旬	第111回薬剤師国家試験
3	2	成績発表 A2ターム
	中旬	卒業者発表
	25	卒業式・薬学部卒業式〔安田講堂・薬学部講堂〕（未定）

9. 授業科目一覧

④：薬科学科の必修 4：薬科学科の選択

⑥：薬学科の必修 6：薬学科の選択

*：指定なし（履修できるが修得単位は卒業要件の単位とはならない）

2 年生（2026年度進学者）

A 1ターム

科 目	単位	担当教員	内 容 【曜日・時限】
分析化学Ⅰ	1 ④⑥	角田 誠	分析の基礎、溶液中の化学平衡、化学物質の定性・定量分析、機器を用いる分析法について学びます。 【火・2】
有機化学Ⅱ	1 ④⑥	尾谷 優子	酸と塩基、求核置換反応、脱離反応など、有機反応の理解のための基本的な概念について学びます。 【火・3】
分子生物学	1 ④⑥	村田 茂穂 濱崎 純	生命科学を理解するために必要な分子生物学の基礎を学びます。 【火・4】
細胞生物学	1 ④⑥	富田 泰輔 福山 征光 青木 淳賢 河野 望	生命科学を理解するために必要な細胞生物学の基礎を学びます。 【水・2】
有機化学Ⅰ	1 ④⑥	井上 将行	立体化学、構造化学、酸化と還元などの有機化学の基礎を学びます。 【水・3】
放射化学	1 ④⑥	秋光 信佳	医学・薬学の諸分野で不可欠なアイソトープと放射線の基礎と応用、生物影響等について講義します。 【水・4】
物理化学Ⅱ	1 ④⑥	角田 誠	重要な熱力学的概念の理解と、薬学で重要な系の物理化学的考え方と手法について講義します。 【木・2】
機能形態学	1 ④⑥	中嶋 悠一郎 他	薬物療法や病態を理解するための基礎知識として、各臓器の構造と機能（解剖学・生理学）を

			学びます。 【木・3】
物 理 化 学 I	1 ④⑥	竹 内 恒	量子化学と分光法を理解することにより、物理化学的概念の修得を目指します。 【木・4】
薬 学 概 論	1 ④⑥	教 務 委 員 会	薬学という学問のアウトライン、歴史、将来像を分かりやすく説明し、産業、医療など、社会との関わりを考えます。また、最新の薬学研究の一端を学びます。 【金・3】
生 物 統 計 学	1 4 6	五 十 嵐 中	医薬品の評価に使われる統計学的方法と実験法に関する講義と演習です。 【金・4】

A 2ターム

科 目	単 位	担 当 教 員	内 容 【曜日・時限】
有 機 化 学 IV	1 ④⑥	金 井 求	カルボニル化合物の典型的な反応性について学びます。 【火・2】
分 析 化 学 II	1 ④⑥	角 田 誠	化学物質の定性分析、機器を用いる分析法、分離分析法、臨床現場で用いる分析技術について学びます。 【火・3】
物 理 化 学 III	1 ④⑥	清 水 敏 之	蛋白質構造の階層性、様々な分子間相互作用、酵素の構造や酵素反応論について学びます。 【火・4】
微 生 物 学 ・ 化 学 療 法 学	1 4⑥	堀 昌 平 新 藏 礼 子 瀬 戸 口 留 可	ウイルス、細菌などの微生物に関する基礎的知識、微生物による感染症、抗菌薬やワクチンの作用機構について学びます。 【水・2】
発 生 遺 伝 学	1 4 6	中 嶋 悠 一 朗	発生遺伝学の概説とモデル動物を用いた創薬科学への応用を講義します。 【水・3】
薬 理 学 I	1 ④⑥	池 谷 裕 二	薬理学の基礎を学び、自律神経系や循環系に作用する薬物の作用を理解します。 【水・4】

機能生物学	1 ④⑥	後藤 由季子 川口 大地 大石 康二	生命科学を理解するために必要な細胞高次機能の基礎を学びます。 【木・2】
病理学	1 ④⑥	富田 泰輔 堀 由起子	細胞と組織の病理変化，臨床疾患の分類や，その病態，治療について解説します。 【木・3】
薬物動態制御学	1 ④⑥	楠原 洋之	医薬品開発ならびに医薬品の適正使用を実現するために，医薬品の体内動態特性を定量的に理解するための理論体系である薬物速度論を説明するとともに，体内動態の個人間変動を生じる要因について解説します。 【木・4】
有機化学Ⅲ	1 ④⑥	内山 真伸 中島 誠也 鳥海 尚之	置換反応，ラジカル反応，酸化還元反応，付加反応などの化学反応論と化学反応を理解するために重要な有機電子論について学びます。 【金・3】
創薬科学	1 ④*	金井 求 池谷 裕二 他	製薬企業で成功した研究者を中心に，創薬の実際と将来像を語ってもらいます。 【金・4】

3年生 (2025年度進学者)

S1ターム

科目	単位	担当教員	内 容 【曜日・時限】
インタラクティブ [®] 有機化学	1 4 6	金井・井上 尾谷・内山 阿部・森野 浦 野	演習やグループディスカッション形式を交えながら、有機化学の基礎を概観、復習します。 【月・2】
構造分子薬学	1 4 *	大戸 梅治 竹内 恒	核磁気共鳴法やX線結晶構造解析法による，生体高分子の構造解析の基礎と実例を説明します。 【火・2】
薬理学Ⅱ	1 ④⑥	池谷 裕二	中枢神経系、内分泌系、免疫系に作用する薬物の薬理作用について，身体機能および精神機能の観点から整理して理解します。 【水・2】

免疫学	1 4 6	堀 昌平 新藏 礼子 瀬戸口 留可	免疫系の成り立ちと感染やアレルギーにおける免疫応答を，組織，細胞，分子のダイナミックな動きを通して理解します。 【金・2】
薬学実習Ⅰ	5 ④⑥	有機・薬化 天合・合成	有機化学の基本的実験操作の習得，基礎的単位反応と応用的合成反応の習得。 【月～金・午後】
薬学実習Ⅱ	3 ④⑥	天然・代謝 植物園・分析	生物有機化学基礎実験（天然有機化合物の抽出，単離，同定及び生合成；吸光法及び蛍光法の基礎と応用，高速液体クロマトグラフィーの基礎と実際；薬物代謝反応実験，酵素反応速度解析；薬用植物園見学）。 【月～金・午後】

S 2ターム

科目	単位	担当教員	内 容 【曜日・時限】
有機化学Ⅴ	1 ④⑥	阿部 郁朗 森 貴裕	生物活性を有する天然有機化合物の化学と，生合成の基礎を学びます。 【月・2】
有機化学Ⅵ	1 ④⑥	浦野 泰照	医薬品の代謝および創薬化学の基礎、炭水化物と合成ポリマーの化学に関する講義です。P-450を中心に酵素誘導、遺伝多型、代謝反応様式、酵素反応機構などを分子レベルで解説し、医薬品の分子設計、化合物ライブラリー、リード化合物など創薬研究の基礎、炭水化物や合成ポリマーなどの高分子についても学びます。 【火・2】
衛生化学	1 4⑥	河野 望	環境物質の生体に与える影響について解説します。 【水・2】
がん細胞生物学・ バイオ医薬品	1 4 6	後藤 由季子	癌の発生から進行に関する生物学及び癌の臨床と治療法，とくに薬物療法に関する講義です。 【木・2】
医薬品情報学	1 4⑥	佐藤 宏樹	医療現場における医薬品情報の重要性、医薬品情報に関する基本的事項、市販後の医薬品情報の収集・評価・提供などについて概説します。 【金・2】

薬学実習Ⅲ	3 ④⑥	物化・動態 構造	物理化学基礎実験（薬物の体内動態データの取得及び解析法、タンパク質の物理化学的解析法およびタンパク質間相互作用の構造生物学的解析、X線解析法による分子構造の解析と立体構造の理解）。 【月～金・午後】
-------	---------	-------------	--

A 1 ターム

科 目	単位	担当教員	内 容 【曜日・時限】
分子生理化学	1 4 6	北川 大樹 齋藤 博英	ホルモンなど細胞外シグナル分子の受容と情報伝達について、最新の知見を解説します。 【月・2】
医療薬学	1 ④⑥	高田 龍平 山梨 義英	医療における薬学の理解を目標とし、医療制度、医薬品開発と有効性や安全性、疾患と治療薬、医療と薬剤師、調剤・製剤の基礎、服薬指導と薬歴管理、臨床薬物動態学などについて概説する。 【火・2】
医薬化学Ⅱ	1 ④ 6	阿部・森 尾谷	生理活性物質・医薬分子の有機化学、分子設計の有機化学を学びます。 【水・2】
疾患代謝学	1 4 ⑥	青木・村田 河野・濱崎	代謝一般と、その破綻により引き起こされる様々な疾患について解説します。 【木・2】
医薬化学Ⅰ	1 ④ 6	金井 求 井上 将行	医薬合成を目標とする高いレベルの合成化学、遷移金属化学、複素環、天然物合成化学などの講義です。 【金・2】
薬学特別講義	1 4 ⑥	教務委員会	生命に関わる職業人に必要な倫理観、コミュニケーションスキルなどについて学びます。 【集中】
薬学実務実習Ⅰ	1 ④⑥	医 学 部 附 属 病 院 薬 剤 部	薬物代謝酵素の遺伝子多型判定を通して、今後の医療を考える上での遺伝子多型の意義やその解釈の仕方、さらにはヒトゲノム・遺伝子を対象とした研究を行う上での正しいプロセス、倫理指針の遵守の重要性を学ぶ。 【集中】

薬学実習Ⅳ	5 ④⑥	免疫・生理 遺伝・分子 衛生	<p>(1) 生理化学実験 血糖値の調節（代謝生理学実験） 培養細胞の増殖応答（アイソトープ実験）</p> <p>(2) 分子生物学実験 培養細胞を用いた分子生物学の基礎実験</p> <p>(3) 遺伝学実験 モデル動物を用いた分子遺伝学の基礎実験</p> <p>(4) 微生物実験 微生物基礎実験，抗生物質，遺伝子操作の 基礎実験</p> <p style="text-align: right;">【月～金・午後】</p>
-------	---------	----------------------	---

A 2ターム

科目	単位	担当教員	内 容 【曜日・時限】
医薬化学Ⅲ	1 ④*	内山 真伸 浦野 泰照	<p>医薬品開発に必須の有機化学の講義で、有機反応化学、生体関連反応及び生理活性物質の化学の基礎を解説します。また光機能性分子を中心に、ケミカルバイオロジー研究を基礎から解説します。</p> <p style="text-align: right;">【月・2】</p>
天然物化学	1 4⑥	阿部 郁朗 森 貴裕 野口 博司	<p>局方収載生薬を中心とする天然由来薬物の起源、成分、評価、応用及び植物バイオテクノロジーについて学びます。</p> <p style="text-align: right;">【火・2】</p>
製剤設計学	1 4⑥	楠原 洋之 他	<p>医薬品のドラッグデリバリーシステムの他、医薬品の剤形について、設計製造法、有用性評価法について学びます。</p> <p style="text-align: right;">【水・2】</p>
生物物理学	1 4 6	竹内・清水 岡部	<p>生体の階層性（分子から個体まで）と各階層について学びます。</p> <p style="text-align: right;">【木・2】</p>
医薬品安全性学	1 4⑥	細野 浩之 苅谷 嘉顕 他	<p>医薬品の安全性の科学的裏付けを、生体のストレス応答という観点を軸に、分子生物学、細胞生物学、病態生理学ならびに社会学的な視点から解説します。</p> <p style="text-align: right;">【金・2】</p>

薬学実習 V	3 ④⑥	病態・薬作 細情・蛋白	全身動物，摘出器官を用いた基礎薬理学実験。 病理標本の観察，組織化学，細胞内シグナル伝達機構の解析，タンパク質を扱うための基礎的な細胞生物学・生化学実験。 【月～金・午後】
--------	---------	----------------	--

4 年生 (2024年度進学者)

S 1 ターム

科 目	単 位	担当教員	内 容 【曜日・時限】
薬事法・特許法	1 4⑥	小野 俊介 榊田 祥子	薬事関連法規及び特許法の基本について学びます。 【火・2】
公衆衛生学	1 4⑥	五十嵐 中	健康の概念、疫学、薬剤疫学、薬剤経済学の基本について学びます。 【水・2】
臨床薬理学	1 *⑥	楠原 洋之 荒川 義弘 他	疾患の病態生理から薬物動態，臨床薬理，臨床試験まで，薬物治療の基本と臨床開発について臨床的側面から学びます。また，癌の診断，治療，臨床治験の実際を，臨床病理，内科，外科，放射線科等の専門家から学び，病気としての癌の理解を目指します。 【木・2】
医薬品評価科学	1 4⑥	小野 俊介 他	医薬品開発と薬効評価の方法，国内外の開発環境やガイドラインについて，具体例に基づいて解説します。 【金・2】

4～6年生 (2024年度以前進学者)

4年生 (薬科学科)

科 目	単位	担当教員	内 容
薬学卒業実習	20 ④	各 教 室	薬学部（病院薬剤部を含む）の教室に配属となり、薬学研究の第一線に参加します。

4～6年生 (薬学科)

科 目	単位	担当教員	内 容
薬学実習Ⅵ	20 ⑥	各 教 室	薬学部の教室に配属となり、薬学研究の第一線に参加すると同時に、病院薬剤部・薬局に行く前の自主的な研究・学習を行う。
薬学実務実習Ⅱ	4 ⑥	細野 浩之 他	患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践とチーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得します。薬学実務実習Ⅱでは、薬学実務実習Ⅲ・Ⅳに先だって、大学内で、薬剤師業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得します。
薬学実務実習Ⅲ	10 ⑥	苅谷 嘉顕 他	病院薬剤師の業務と責任を理解し、チーム医療に参画できるようになるために、調剤および製剤、服薬指導などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得する。
薬学実務実習Ⅳ	10 ⑥	佐藤 宏樹 他	薬局での11週間の実習を通して、処方箋調剤、在宅療養支援、セルフメディケーション推進、地域保健・衛生活動などの薬局薬剤師の業務の意義と地域医療を支える心構えを理解し、地域医療に貢献する実践的能力を習得します。
薬学卒業実習	20 ⑥	各 教 室	薬学部（病院薬剤部を含む）の教室に配属となり、薬学研究の第一線に参加します。

10. 各教室主要研究テーマ・教職員

薬化学教室

① 研究テーマ

1. 特異な構造特性を持つ分子の合成と応用
アミドの化学, ヘリックスペプチドと β -ストランドペプチドの応用
2. 新しい反応の発見と合成への応用
陽イオン中間体の化学, 反応活性中間体の化学, 芳香族化合物の官能基化への応用
3. 特徴ある機能 (生物活性等) を持つ有機分子の設計・合成・構造の研究
膜タンパク質の機能を調節する脂質分子のデザインと合成
4. 精密計算を用いる構造と反応機構の解析・分子シミュレーションを用いる分子の動的挙動解析・タンパク質計算科学

② <http://www.yakka.f.u-tokyo.ac.jp/>

③ 教職員 (内線電話番号) (メールアドレス)

准教授 尾谷優子 24732 otani@mol.f.u-tokyo.ac.jp

天然物合成化学教室

① 研究テーマ

1. 生物活性天然物の全合成研究

多縮環，巨大複雑，及びペプチド系天然有機化合物の全合成

2. 全合成のための新しい反応・合成法・戦略の開発

炭素骨格の直接官能基化，対称性を利用した炭素骨格構築，アミノ酸の効率的構築などを目的とした反応・合成法・戦略の開発

3. 合成化合物の機能解析と応用

生物活性解析と機能－構造相関による天然物の新しい機能の理解と応用

4. イオンチャネル形成天然物の合成・機能研究

イオンチャネルを形成する巨大ペプチド系天然物の全合成・機能解析と，有機合成化学による天然物を超える機能の創造

② <https://inoue.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	井 上 将 行	2 1 3 5 4	inoue@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	伊 藤 寛 晃	2 1 9 2 5	itoh@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	萩 原 浩 一	2 1 9 2 4	khagiwara@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特 任 助 教	藤 野 遥	2 1 3 5 3	hfujino@mol.f.u-tokyo.ac.jp

有機合成化学教室

① 研究テーマ

1. 触媒反応開発に関する研究
 - a. Complex molecule synthesisを短工程化する触媒的合成法の開発
 - b. 触媒反応を基盤とする生物活性物質の革新的合成 (clean, robust, and short)
 - c. 触媒反応のメカニズム解析
 - d. 不斉化
2. タンパク質構造修飾反応の開発と応用
3. 細胞内人工触媒反応による生命機能制御、病態治療

② <https://gousei.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員		(内線電話番号)	(メールアドレス)
教 授	金 井 求	24830	kanai@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	川 島 茂 裕	24775	skawashima@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	三ツ沼 治 信	24836	h-mitsunuma@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	山 梨 祐 輝	21807	yamanashi@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任助教	山 根 三 奈	24835	yamamina@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

創薬科学	小 林 慶 行	YK BioPharma BioPharma コンサルタント
同	磯 村 峰 孝	エーザイ株式会社 DHBL, PPDファンクションPSTユニット原薬研究部 プロセス研究第一グループ グループ長
同	飯 倉 仁	中外製薬株式会社 トランスレーショナルリサーチ 本部長
同	小 池 竜 樹	武田薬品工業株式会 リサーチ ニューロサイエンス創薬ユニット ディレクター

天然物化学教室

① 研究テーマ

1. 天然物生合成のケミカルバイオロジー（生合成工学、合成生物学）
2. 二次代謝酵素の触媒機能制御（構造機能解析、酵素工学）
3. 生物活性天然物の探索と単離構造決定

② <https://tennen.f.u-tokyo.ac.jp/head.htm>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	阿 部 郁 朗	2 4 7 4 0	abei@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	森 貴 裕	2 4 7 4 1	tmori@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特 任 助 教	水 谷 拓	2 4 7 4 2	mizutani@mol.f.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

天然物化学 野 口 博 司 日本薬科大学 薬学教育推進センター 客員教授

基礎有機化学教室

① 研究テーマ

1. 分子の構造・結合・芳香族性・動きに関する研究
2. 結合を自在に操る新反応開発
3. 物質と生命を光で繋ぐ化学薬学研究
4. 生命の起源と物質の進化に関する研究

② <https://kisoyuki.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	内 山 真 伸	20732	uchiyama@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任准教授	中 島 誠 也	20783	m.nakajima@mol.f.u-tokyo.ac.jp
講 師	鳥 海 尚 之	21089	toriumi@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	永 島 佑 貴	21089	y.nagashima@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任助教	松 山 太 郎	20783	matsuyama@mol.f.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

基礎有機化学・医薬化学	春 田 純 一	大阪大学	特任教授
同	石 田 勝 彦	東京化学同人	取締役
同	秋 山 仁	東京理科大学	理数教育研究センター長
同	村 中 厚 哉	理化学研究所	専任研究員

薬用植物化学（薬用植物園）

① 研究テーマ

1. 薬用植物の栽培

② <https://shokubutsuen.f.u-tokyo.ac.jp/>

③ 教職員		(内線電話番号)	(メールアドレス)
園長(兼)	浦野泰照	24850	uranokun@m.u-tokyo.ac.jp
教授(兼)	阿部郁朗	24740	abei@mol.f.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

薬学実務実習II 折原 裕 東京大学大学院薬学系研究科 特任研究員

生体分析化学教室

① 研究テーマ

1. 1分子検出顕微鏡による細胞機能解析
2. 細胞応答における1細胞遺伝子発現解析
3. マイクロ・ナノデバイスによる分析科学技術の開発

② <https://bunseki.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

准教授 角田 誠 24761 makotot@mol.f.u-tokyo.ac.jp

生命物理化学教室

① 研究テーマ

1. 動的構造解析に基づく生物学的・創薬科学的に重要なタンパク質の機能解明
2. 相互作用解析に基づくシグナル伝達やエネルギー代謝を司る生体分子群の機能解明
3. 高分子量タンパク質の立体構造やダイナミクスを解析するNMR手法の開発
4. 生体分子の機能環境を再現する試料調製法と洗練された安定同位体標識法の開発
5. in-cell NMR法による細胞内の生命現象のリアルタイム観測と細胞内創薬への展開

② <https://biophys.f.u-tokyo.ac.jp/index.html>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教	授	竹	内	恒	24810	koh-takeuchi@mol.f.u-tokyo.ac.jp
講	師	幸	福	裕	24813	happy@nmrlab.f.u-tokyo.ac.jp
助	教	徳	永	裕二	24814	tokunaga-y@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助	教	外	山	侑樹	24814	yuki.toyama@mol.f.u-tokyo.ac.jp

衛生化学教室

① 研究テーマ

1. GPCRを介して機能する“リゾリン脂質”生理・病態機能の解明
2. 新規GPCR脂質リガンドの発見と機能解明
3. リン脂質の生合成や恒常性維持に関わる分子の同定を通じた新規リン脂質の機能解明

② <https://sites.google.com/view/eiseikagaku-jp/>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	青 木 淳 賢	2 4 7 2 0	jaoki@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	河 野 望	2 4 7 2 3	nozomu@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	可 野 邦 行	2 4 7 2 2	k-kano@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	嶋 中 雄 太	2 4 7 2 4	yshimanaka@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
特 任 助 教	近 江 純 平	2 4 7 2 1	jomi@mol.f.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

衛生化学	原 俊 太 郎	昭和大学薬学部教授
同	宇 田 川 理	国立環境研究所 環境リスク・健康領域 統合化健康リスク研究室 主任研究員
同	青 木 良 子	国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部 主任研究官

生 理 化 学 教 室

① 研究テーマ

細胞分裂を制御する基本原理を解明し、創薬に応用する

1. 中心体複製の分子機構の解明とその理論化
2. 多様なマシナリーにより駆動される細胞分裂の分子基盤
3. 非コードRNAが制御する細胞分裂の分子機構
4. 比較がん細胞生物学と次世代型細胞分裂阻害剤の開発
5. 細胞遺伝学的手法による細胞間コミュニケーションの解析

② <https://seirikagaku.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	北 川 大 樹	2 4 7 5 0	dkitagawa@mol.f.u-tokyo.ac.jp
講 師	福 山 征 光	2 4 7 5 4	mfukuyam@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特 任 講 師	畠 星 治	2 4 7 5 3	s.hata@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	知 念 拓 実	2 4 7 5 3	takumi.chinen@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	山 本 昌 平	2 4 7 5 3	s.yamamoto@mol.f.u-tokyo.ac.jp

分子生物学教室

① 研究テーマ

細胞運命が決定する仕組みを分子レベルで理解する：

1. 脳発生および成体における神経幹細胞の運命制御
2. エピゲノム／クロマチンによる細胞運命制御
3. 脳発生異常と精神疾患の関連

② <https://molbio.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	後 藤 由季子	2 4 8 7 0	ygotoh@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	川 口 大 地	2 4 8 7 0	dkawaguchi@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任准教授	大 石 康 二	2 4 8 7 0	koishi@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	國 屋 敬 章	2 4 8 7 0	taka1129@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任助教	梶 下 紘 貴	2 4 8 7 0	hiroki-sugishita@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

遺 伝 学 教 室

① 研究テーマ

1. 非細胞死性のカスパーゼ活性の分子機構と生体制御機構
2. 発生・再生・成長・老化における代謝スイッチ機構
3. 表現度発現の分子機構
4. 発生における器官サイズ制動機構
5. 細胞運命の可塑性から解く組織恒常性と環境応答

② <https://idenut.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

准 教 授	中 嶋 悠一朗	2 4 8 6 3	nakaji97@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
助 教	篠 田 夏 樹	2 4 8 6 3	fshinoda.natsuki@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

細胞情報学教室

- ① 研究テーマ
 - 1. ストレス応答のシグナル伝達
 - 2. 細胞死の分子機構

- ② <https://saijyou.f.u-tokyo.ac.jp/>

- ③ 教職員 (内線電話番号) (メールアドレス)
助 教 藤 澤 貴 央 24858 fujisawa@mol.f.u-tokyo.ac.jp

蛋白質代謝学教室

① 研究テーマ

1. プロテアソームの動作機構の解明
2. プロテアソーム機能異常による疾患（老化、がん、炎症、神経変性）への介入方法の創出
3. ユビキチン・プロテアソーム系によるタンパク質恒常性維持機構の解明

② <https://tanpaku.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教	授	村	田	茂	穂	24803	smurata@g.ecc.u-toyo.ac.jp
講	師	濱	崎		純	26319	jhamazak@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
助	教	柴	田	佑	里	24617	shibata-y@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

高次生命情報学教室

① 研究テーマ

1. 離散的な遺伝情報から生み出される多彩な細胞状態とそのゆらぎを理解する
2. 細胞内マルチオミクス間制御ネットワークの進化的変遷と全体像を解明する
3. 最新の情報科学の力で生命のビッグデータと数理モデルの間の橋渡しをする

② https://carushi.github.io/cb_lab/index.html

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

准教授 河口理紗 20834 rkawaguc@mol.f.u-tokyo.ac.jp

薬品代謝化学教室

① 研究テーマ

「精密疾患イメージング・治療、細胞機能解析を志向したケミカルバイオロジー」

1. 蛍光・増感・ケージドプローブの論理的デザイン法の確立を目指した光物理有機化学研究
2. 新規光機能性プローブの開発とその細胞生命現象解析への応用
3. 動物体内での *in vivo* 病態可視化・動的制御を実現する光機能性・核医学プローブの開発
4. 微小がんの術中迅速可視化・精密治療を実現する光機能性・核医学プローブ、プロドラッグ型抗がん剤の開発（精密がん低分子セラノスティクス医療技術創成）
5. 蛍光プローブを活用した創薬及び創薬標的の探索に関する研究

② <https://taisha.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	浦 野 泰 照	2 4 8 5 0	uranokun@m.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	小 松 徹	2 1 0 7 5	tkomatsu@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	上 野 匡	2 4 8 5 2	tasueno@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	橘 椋	2 4 8 5 3	rtachibana@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任助教	KELLER SASCHA GEORG	2 4 8 5 3	skeller@m.u-tokyo.ac.jp
助 教	内 山 聖 一	2 4 7 6 8	seiichi@mol.f.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

有機化学VI 藤 川 雄 太 東京薬科大学生命科学部准教授

蛋白構造生物学教室

① 研究テーマ

1. クライオ電子顕微鏡による単粒子構造解析およびX線結晶解析による蛋白質など生体高分子の三次元構造解析
2. 生体高分子（とくに、自然免疫に関わるタンパク質や翻訳後修飾に関わるタンパク質、およびシグナル伝達に関わるタンパク質）の構造と機能の研究
3. 生体高分子とその活性制御化合物との複合体構造に基づく分子設計
4. 三次元構造に基づく分子間相互作用の研究

② <https://kouzou.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員		(内線電話番号)	(メールアドレス)
教 授	清 水 敏 之	24840	shimizu@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	大 戸 梅 治	24842	umeji@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	平 野 良 憲	24841	y-h@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	張 志 寛	24841	zhang@mol.f.u-tokyo.ac.jp

免疫・微生物学教室

① 研究テーマ

1. 自己免疫寛容の確立・維持メカニズムとその破綻
2. 制御性T細胞の分化と機能のメカニズム
3. メモリーCD8 T細胞の恒常性維持メカニズム

② <https://meneki.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	堀 昌 平	24820	shohei@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	瀬戸口 留 可	24825	ruka.setoguchi@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	中 島 啓	24821	anakajima@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	村 上 龍 一	24823	r.murakami@mol.f.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

放 射 化 学	秋 光 信 佳	東京大学アイソトープ総合センター教授
免 疫 学	新 藏 礼 子	東京大学定量生命科学研究所教授
微生物学・化学療法学	同 上	同 上

分子薬物動態学教室

① 研究テーマ

薬物の薬効，安全性を支配する要因と機構の解明

ー薬物の生体内動態（ファーマコキネティクス）及び薬効発現の速度論，分子論ー

1. 生理学的薬物速度論モデルによる薬物体内動態予測法の確立
2. 薬物の血液脳関門・血液脳脊髄液関門透過機構の解明および脳内動態予測法の確立
3. 薬物の肝胆系輸送および消化管吸収の定量的予測に資する新規実験ツールの開拓・予測法の開発
4. 薬物相互作用の発現リスク予測法の開発
5. 小児肝臓難病の病態解明、診断・治療法の開発に関する研究
6. 生命科学データの潜在表現の理解と活用

② <https://dotai.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	楠 原 洋 之	24770	kusuhara@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准 教 授	林 久 允	24773	hayapi@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	水 野 忠 快	24771	tadahaya@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任助教	橋 本 芳 樹		

〔非常勤講師〕

臨床薬理学	荒 川 義 弘	筑波大学つくば臨床医学研究開発機構
同	樋 口 真 人	量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所
同	寺 尾 公 男	中外製薬株式会社
同	山 口 正 雄	帝京大学ちば総合医療センター
同	阿 部 修	東京大学大学院医学系研究科放射線診断学
同	片 野 厚 人	東京大学医学部附属病院放射線科
同	渡 邊 裕 司	浜松医科大学
製剤設計学	森 部 久仁一	千葉大学大学院薬学研究院
同	柳 井 薫 雄	武田薬品工業株式会社
同	前 田 和 哉	北里大学薬学部

薬学概論	}	高 田 龍 平	東京大学医学部附属病院 教授 薬剤部長
医療薬学			
薬学実務実習Ⅰ			
薬学実務実習Ⅲ	}	山 梨 義 英	東京大学医学部附属病院 講師 副薬剤部長
医療薬学			
薬学実務実習Ⅰ			
薬学実務実習Ⅲ	}	池 淵 祐 樹	同 講師
同			
薬学実務実習Ⅲ			
同	}	山 本 武 人	東京大学医学部附属病院薬剤部 副薬剤部長
同			
同			
同	}	大 野 能 之	同 副薬剤部長
同			
同			
同	}	伊 藤 紗 代	同 助教
同			
同			
同	}	折 山 豊 仁	同 助教
同			
同			
同	}	藏 田 玲 美	同 助教
同			
同			
同	}	徳 田 篤 志	同 助教
同			
同			
同	}	長 江 裕 亮	同 助教
同			
同			
同	}	宮 田 大 資	同 助教
同			
同			
同	}	阿 部 敏 秀	同 薬剤主任
同			
同			
同	}	阿 部 美由紀	同 薬剤主任
同			
同			
同	}	上 野 正 貴	同 薬剤主任
同			
同			
同	}	小久江 伸 介	同 薬剤主任
同			
同			
同	}	高 橋 裕 子	同 薬剤主任
同			
同			
同	}	高 山 和 郎	同 薬剤主任
同			
同			
同	}	苔米地 敬	同 薬剤主任
同			
同			
同	}	山 田 麻衣子	同 薬剤主任
同			
同			

薬品作用学教室

① 研究テーマ

1. 神経回路システムの演算機構と高次可塑性の探求
 - a. 海馬および大脳皮質の神経回路の構造機能相関の解析
 - b. 自発的神経活動の発生機構と機能的意義の探求
 - c. 共感と気付き、および自閉症モデルの神経回路基盤の解明
 - d. 脳回路と人工知能（A I）の融合による新たな知能の開拓
2. 健常脳および病態脳におけるニューロン・グリア相関の探求
 - a. 海馬神経回路の形成機構の解明
 - b. シナプス形成メカニズムの研究
 - c. 自閉症の基礎医学的研究
 - d. 乳幼児けいれんとてんかんの基礎医学的研究
 - e. 脳内温度変化が脳構造と脳機能に与える影響の研究
 - f. 光操作を利用したてんかん脳の異所回路形成機構の解明
3. 神経細胞集団による記憶処理機構の解明
 - a. 海馬神経細胞による空間記憶表象の理解
 - b. 海馬回路による将来の行動設計機構の解明
 - c. 海馬回路の活動を基にした脳-身体連関の解析
4. 感覚情報処理を担う神経回路基盤の解明
 - a. 自発的神経活動に依存した嗅覚神経回路形成機構の解明
 - b. 嗅神経における細胞個性の獲得機構の解明
 - c. 感覚入力に依存した高次脳領域の回路と機能の可塑的变化の探求

② <http://yakusaku.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	池 谷 裕 二	2 4 7 8 0	yuji@ikegaya.jp
准 教 授	中 嶋 藍	2 4 7 8 3	anaka@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	松 本 信 圭	2 1 0 7 4	nmatsumoto@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特 任 助 教	鹿 島 哲 彦	2 4 7 8 2	kashimatetsuhiko@gmail.com

〔非常勤講師〕

創 薬 科 学	伊 東 洋 行	アステラス製薬(株)研究本部長付研究環境担当次長
同	菊 地 哲 朗	大塚製薬(株)医薬品事業部新薬研究部門フェロー研究部門担当
同	塩 谷 正 治	田辺三菱製薬(株) 創薬本部フロンティア創薬ユニット主席研究員

機能病態学教室

① 研究テーマ

1. A β 代謝メカニズム（産生、分泌、分解）とその制御の研究
2. A β 蓄積後に生じる細胞病態の理解と診断法開発
3. 患者脳に蓄積するアミロイド形成機構解明と制御
4. アルツハイマー病におけるミクログリアの病的機能解明
5. パーキンソン病の分子病態メカニズム解明
6. α シヌクレイン蓄積病態伝播機構の解明
7. 神経細胞シナプス接着分子の代謝メカニズムと機能
8. 認知症予防運動プログラムの開発

② <https://neuropsc.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教 授	富 田 泰 輔	2 4 8 6 8	taisuke@mol.f.u-tokyo.ac.jp
客員教授	鳥 居 慎 一	2 4 8 9 5	storii@vermillion-tx.com
准 教授	堀 由 起 子	2 4 8 7 7	yukiko-hori@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	高 鳥 翔	2 4 7 2 6	takatori@mol.f.u-tokyo.ac.jp
助 教	木 村 妙 子	2 4 7 2 6	taeko-kimura@mol.f.u-tokyo.ac.jp

医薬品評価科学教室

① 研究テーマ

社会における医薬品の価値評価に係る科学の確立と実践を目指す。

1. 医薬品の有効性・安全性の評価方法に関する研究
2. 社会における医薬品使用の最適化に関する研究
3. グローバルな医薬品研究開発の産業論的メカニズムに関する研究
4. 医薬品規制のパフォーマンス・効率に関する研究
5. 医薬品評価における意思決定メカニズムに関する研究
6. 医薬品評価の理念・倫理及び具体的な方法論に関する教育訓練の実践

② <https://yakuhyou.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員 (内線電話番号) (メールアドレス)

客員教授	藤原康弘	(医薬品医療機器総合機構 理事長)
准教授	小野俊介	21691 shun-ono@mol.f.u-tokyo.ac.jp
講師	荻谷嘉顕	20608 kyoshiaki-ky@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
	(医療薬学教育センターと兼任)	

[非常勤講師]

医薬品評価科学	柴田大朗	国立がん研究センター研究支援センター 生物統計部 部長
---------	------	--------------------------------

育薬学教室

① 研究テーマ

1. 高効率な市販後情報収集システムの持続的推進
2. 医薬品に関連するトラブルの予測と製品進化に関する育薬研究
3. 一般市民を対象とした新たな市販後情報収集システム
4. 医療・介護関係者、一般市民に対する医薬品適正使用・育薬のための教育・研修

② <https://lab.ikuyaku-ut.jp/>

③ 教職員 (内線電話番号) (メールアドレス)
特任准教授 佐藤 宏 樹 22271 satoh@mol.f.u-tokyo.ac.jp

◎社会連携講座

タンパク質分解創薬教室

① 研究テーマ

1. タンパク質分解を誘導する新しい技術の開発
2. 病気の原因となっているタンパク質を分解するSNIPER化合物の開発

② <https://tpd.f.u-tokyo.ac.jp>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教授(兼任)	村田茂穂	24803	smurata@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任研究員	内藤幹彦	24738	mnaito@mol.f.u-tokyo.ac.jp

分子腫瘍薬学教室

① 研究テーマ

1. 薬剤耐性機序の解明
2. 薬剤併用療法の開発
3. 悪性腫瘍治療における免疫活性化療法
4. クローン性造血におけるT細胞機能の解明

②

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

教授 (兼任)	堀	昌	平	2 4 8 2 0	shohei@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任准教授	榎	本	豊	2 4 3 5 5	yenomoto2020@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
特任研究員	北	村	俊 雄	2 4 3 5 5	kitamura@ims.u-tokyo.ac.jp

医療政策・公衆衛生学教室

① 研究テーマ

1. 平時にも有事にも対応できる感染症領域のエビデンス創出基盤の構築
2. イノベーションと社会保障制度双方の持続可能性を見据えたValue-Based Healthcare Systemの提案

②

③ 教職員		(内線電話番号)	(メールアドレス)
特任准教授	五十嵐 中	24828	ataruil@mac.com
特任助教	正路 章子	24828	mountain-ash795@nifty.com
特任助教	鷹見 明奈	24832	mariechanmail@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

〔非常勤講師〕

生物統計学	名郷 直樹	武蔵国分寺公園クリニック 名誉院長
公衆衛生学	池田 俊也	国際医療福祉大学 公衆衛生学教授
公衆衛生学	福田 敬	国立保健医療科学院 保健医療経済評価研究センター センター長

◎教育センター

医療薬学教育センター

① 研究テーマ

1. 薬学実務実習に向けたプログラムの開発研究
2. 医療薬学教育プログラムの開発研究
3. 先導的薬剤師の養成に向けた卒後教育プログラムの開発研究

② <http://www.f.u-tokyo.ac.jp/~ecmpharm/index.html>

③ 教職員

(内線電話番号)

(メールアドレス)

センター長 (兼) ・教授

	浦野泰照	24850	uranokun@m.u-tokyo.ac.jp
教授 (兼)	富田泰輔	24868	taisuke@mol.f.u-tokyo.ac.jp
教授 (兼)	高田龍平	30750	tappei-tyk@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

副センター長・特任教授

	細野浩之	27620	hhosono@mol.f.u-tokyo.ac.jp
准教授 (兼)	大戸梅治	24842	umeji@mol.f.u-tokyo.ac.jp
特任准教授 (兼)	佐藤宏樹	22271	satoh@mol.f.u-tokyo.ac.jp
講師 (兼)	苅谷嘉顕	20608	kyoshiaki-tyk@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

11. その他の研究室等・教職員

○国際卓越大学院

○国際交流室

講師 五所 恵実子 24878

○共通機器室

R I 管理室・実習器具管理室

技術専門職員 高橋 範行 24883・24715

12. 名誉教授

野 島	庄 七	(衛生化学・裁判化学)	昭60. 5. 21
福 田	英 臣	(毒 性 薬 理 学)	平元. 5. 16
清 水	博	(薬 品 製 造 工 学)	平 5. 5. 18
中 嶋	暉 躬	(薬 品 分 析 化 学)	平 5. 5. 18
宇 井	理 生	(生 理 化 学)	平 5. 5. 18
三 川	潮	(生薬学・植物化学)	平 7. 5. 16
廣 部	雅 昭	(薬 品 代 謝 化 学)	平 8. 5. 21
齋 藤	洋	(薬 品 作 用 学)	平 9. 5. 20
名 取	俊 二	(発 生 細 胞 化 学)	平11. 5. 18
井 上	圭 三	(衛 生 化 学)	平12. 5. 16
長 尾	拓	(薬 効 安 全 性 学)	平14. 5. 14
今 井	一 洋	(生 体 分 析 化 学)	平15. 6. 3
桐 野	豊	(神 經 生 物 物 理 学)	平18. 6. 20
海老塚	豊	(天 然 物 化 学)	平21. 6. 16
柴 崎	正 勝	(有 機 合 成 化 学)	平22. 6. 22
佐 藤	能 雅	(蛋 白 構 造 生 物 学)	平22. 6. 22
杉 山	雄 一	(分 子 薬 物 動 態 学)	平24. 6. 23
入 村	達 郎	(生 体 異 物 学)	平25. 6. 18
長 野	哲 雄	(薬 品 代 謝 化 学)	平25. 6. 18
福 山	透	(天 然 物 合 成 化 学)	平25. 6. 18
松 木	則 夫	(薬 品 作 用 学)	平26. 6. 17
関 水	和 久	(微 生 物 薬 品 化 学)	平28. 6. 14
堅 田	利 明	(生 理 化 学)	平29. 6. 13
新 井	洋 由	(衛 生 化 学)	令元. 6. 18
嶋 田	一 夫	(生 命 物 理 化 学)	令 2. 6. 16

13. 薬学図書館 (<http://www.lib.f.u-tokyo.ac.jp/>)

1. 開館及び閉館

開館時間：月～金曜日 9：00～17：00

休館日：土曜日，日曜日，祝日，年末年始，本学入学試験日その他臨時に閉館することがあります。

2. 時間外利用

薬学部学生は，学生証による入退館システムが利用できます。

図書館閲覧室を利用できますが，カウンターサービスは受けられません。平日早朝を除き，自動貸出機は時間外でもご利用になれます。資料の返却は，図書館入口（2階）のブックポストをご利用ください。

平日：7：30～9：00，17：00～23：00（自動貸出機 9：00～23：00）

休館日：7：30～23：00（自動貸出機 7：30～23：00）

（図書館南側正面玄関は時間外は閉鎖しています。本館や総合研究棟からの通路をご利用ください。）

3. 閲覧室・書庫

2階閲覧室：新着雑誌，参考図書，単行書等が配架されています。

カウンターはこのフロアにあります。

3階閲覧室：和洋雑誌バックナンバー，総説誌等が配架されています。

4階書庫：学位論文，単行書，和洋雑誌の一部が配架されています。（閉架）

5階保存書庫：和洋雑誌の一部，ロシア語雑誌，単行書，報告書等の資料が配架されています。（閉架）

※閉架の資料の利用を希望するときは，開館日の9：00～12：00，13：00～16：30にカウンターで申し出てください。

4. 資料貸出

ICカード学生証を提示してください。カウンターのほか，自動貸出機もご利用になれます。

・図書：5冊，2週間（夏季は長期貸出を実施）

・雑誌：2日

5. 情報検索

東京大学オンライン蔵書目録（OPAC）や電子ジャーナル，データベース検索のためのパソコン・コーナーがあります。

6. 文献複写

コピーカード式コピー機を設置しています。（白黒10円／枚，カラー50円／枚）複写申込書に記入の上ご利用ください。コピーカードは東大生協で購入できます。（4階情報室のプリンタ出力用プリペイドカードとは異なります。）

7. ポスター印刷

薬学部学生は，ポスター印刷サービス（大判プリンタ）が利用できます。予約制で

すので、薬学図書館Webサイトよりお申し込みください。料金のお支払いは公費のみ可能です。

8. その他のサービス

利用登録，貸出図書の予約，図書・文献の取り寄せ，図書購入希望，紹介状発行等の詳細については，Webサイトをご覧ください。

9. 利用上の注意

- ・他の利用者の迷惑にならないよう静粛に願います。
- ・図書館資料およびパソコン，複写機等の機器・備品類は大切に扱ってください。
- ・水分補給はペットボトル等密閉できる容器をご利用ください。また、食事をする場合は1階のロビーをご利用ください。（閲覧室内で食事はできません）

◎情報室について

図書館棟の4階に教育用計算機システム（ECCS）の端末が設置されている情報室があります。

同システムを利用するときは，情報基盤センター作成の「利用の手引き」を確認してください。（<https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/guide/tebiki/>）

1. アカウントについて

○UTokyo Account（東京大学アカウント）とパスワードで利用できます。

2. 設備について

○情報室内にはECCS端末が19台と，プリンタ本体及び操作用PCが設置されています。

○プリンタ出力は，プリペイドカードまたは交通系電子マネー（Suica, PASMO等）による課金方式となります。（白黒10円/ページ，カラー50円/ページ）プリペイドカードは附属図書館に設置されている自動販売機や生協で購入できます。

3. 注意事項

○東京大学教育用計算機システム利用規則に従って利用してください。

（<https://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/rule.html>）

○情報室内では飲食禁止です。（飲食は1階のロビーでお願いします。）

14. 医学図書館

1. 開館及び閉館

開館時間 午前9時～午後5時（平日）

午前10時～午後5時（土曜日）

閉館日 日曜日，祝日，年末年始，入学試験日，
館内整理日（毎月末日，ただし月末が土曜日，休日の場合はその前日）
その他臨時に閉館する場合があります。

2. 閲覧室

(1) ALTIUS（OPAC表示「医図・閲覧室」のもの）

主に2010年以降の単行書，テキストがあります。また，最近2年分の和洋雑誌が誌名のABC順に配架されています。座席を自由に利用できます。

(2) PLENIUS

ECCS端末，ECCSプリンター（コピー，スキャンの利用不可）のみ利用できます。

3. 書庫

(1) 単行書（OPAC表示「医図・書庫」のもの）

(2) 和雑誌・洋雑誌（最近2年分は閲覧室（ALTIUS）にあり）

1994年以前の洋雑誌は柏図書館に移管しています。

4. 利用

(1) 入館ゲートに「ICカード学生証」を読みとらせて入館してください。

(2) 閲覧室，書庫には自由に出入りして閲覧できます。

(3) 館内ではUTokyo WiFiが利用できます。

(4) PLENIUSでは，ECCS端末，ECCSプリンターのみ利用できます。それ以外のPCや座席は利用できませんのでご注意ください。

(5) 館内では静粛を旨とし，食事や他の利用者の迷惑となる行為は慎んでください。

(6) その他不明な点は遠慮なく職員にお尋ねください。医学図書館からのお知らせや利用方法については，医学図書館ウェブサイトに掲載しています。

医学図書館ウェブサイトURL：<https://www.lib.m.u-tokyo.ac.jp/>

15. 東京大学アイソトープ総合センター

学内共同教育研究利用施設として設置され、昭和 45 年度竣工、浅野地区中央部に位置し、地下 1 階～地上 5 階（建築面積：4,296 m²、管理区域面積：1,392 m²）の放射性同位元素（RI）使用施設である。RI を利用する薬医理工農等広範囲の研究分野の実験が、多種（226 種類）の RI につき高低さまざまな使用量レベルで安全に行えるように設備・管理されている。また、RI 及びその安全取扱等に関連する全学の教育訓練と学生実習が、教育訓練棟の講義室、実験室を利用して実施されている。

主要な設備は次のとおりで、いずれも所定の手続きにより学内者は共同利用できる。

（照会先：放射線管理チーム 内線：22870）

研究用設備：RI 実験室、動物実験室、Ge 半導体検出装置、ガンマカウンター、 α 線スペクトロメータ、液体シンチレーションカウンター、ガスフローカウンター、イメージングアナライザー、エックス線解析装置、エックス線照射装置、蛍光エックス線分析装置、¹³⁷Cs ガンマ線照射装置

教育用設備：講義室（約 100 人収容）、RI 実習室（フード備付）、密封線源使用室（GM 計数装置備付）

16. 東京大学薬学部学生自治会規約

第 1 章 総 則

第 1 条 本会は東京大学薬学部学生自治会と称し事務所を東京大学薬学部内に置く。

第 2 条 本会は学生自治の原則に基づき会員の総意を実現し学生生活全般の充実向上に務め併せて会員相互の親睦をはかることを目的とする。

第 3 条 本会は本学学部学生全員を以てこれを組織する。

第 4 条 本会には第 2 条の目的を達成するため次の諸機関を設ける。

- 1 学生大会
- 2 自治委員会
- 3 学生別クラス会

第 5 条 各会議は各々その会員総数の 2 分の 1 以上の出席がなければ会議を開き議決を行うことができない。

第 6 条 各会議の議長はその都度選出する。

第 7 条 各会議の議決はこの規約の他条項に定める以外は出席会員数の 2 分の 1 以上の賛成を得て成立し可否同数の場合は議長の決するところによる。

第2章 組織及び運営

第1節 学生大会

- 第8条 学生大会は本会の最高議決機関である。
- 第9条 学生大会は次の場合に自治委員長がこれを召集する。
- 1 定例学生大会 新自治委員会発足後3週間以内
 - 2 臨時学生大会
 - イ 会員総数の5分の1以上の要求があった場合
 - ロ 自治委員会が決議した場合
- 第10条 学生大会は次の議事を行うことができる。
- 1 会計報告及び予算の承認
 - 2 第2条に掲げた目的を達成するために必要な事項
 - 3 自治委員会正副委員長の信任又は罷免
 - 4 規約改正の発議
- 第11条 自治委員会は大会の日時、会場及び議題を大会開催の3日前迄に公示し且つ大会終了後直ちにその決定を公示しなければならない。

第2節 自治委員会

- 第12条 本会の執行権は自治委員会に属する。
- 第13条 自治委員会は各学年別クラス毎に会員7名につき1名の割合（端数は切り捨て）で選出された自治委員と正副委員長を以て構成される。
- 但し、正副委員長が自治委員の場合、補充選挙は行わない。
- 第14条 正副委員長各1名は会員よりの立候補者より、会員の投票によって選出される。
- 但し、正副委員長が選出されないとき、自治委員会がその職務を執行する。
- 「正副委員長の選出方法」
1. 立候補者締切りと学生投票の間には5日間をおかねばならない。
 2. 立候補者は学生投票の3日以前に活動方針を全会員に明示しなければならない。
 3. 投票の管理は新自治委員会が行う。
 4. 正副委員長選挙は会員総数の過半数の投票により成立する。信任投票の場合、その過半数の信任で選出される。
 5. 投票は単記無記名とする。
- 第15条 自治委員会は次の場合に自治委員長がこれを召集する。
- 1 定例自治委員会 毎週1回
 - 2 臨時自治委員会
 - イ 委員4名以上の要求があった場合
 - ロ 自治委員長が必要と認めた場合

- 第16条 自治委員の任期は6ヶ月とし5月と11月に改選を行う。但し、前期3年生クラスから選出された自治委員の任期は3月からとする。留任はこれを妨げない。
- 第17条 自治委員会は書記局をおく、書記局は、書記長1名、書記2名、会計、会計監査各1名で構成される。

第3節 学年別クラス会

- 第18条 学年別クラス会は各学年別クラス全員を以って組織し、その運営は本会の根底としてクラス自治の本質に基づいて行われなければならない。

第4節 学生投票

- 第19条 学生投票は次の場合にこれを行う。
- 1 学生大会が学生投票を決議した場合
 - 2 規約改正を行う場合
 - 3 自治委員会で自治委員総数の3分の2以上の多数で発議した場合
 - 4 会員の3分の1以上の要求のあった場合
- 2 学年投票は学生大会が決議した場合を除いては1週間前に自治委員会がこれを公示する。
- 第20条 学生投票は自治委員会がこれを管理する。
- 第21条 学生投票は会員総数の過半数によって可否を決する。
- 第22条 自治委員会は開票直後にその決定を公示しなければならない。

第3章 会 計

- 第23条 本会の会費は年額500円として入会当初に2カ年分を納入する。但し分納はこれを認める。
- 第24条 自治委員会は会計を管理し、(任期中の)予算案及び会計報告を学生大会に提出し承認を得なければならない。

第4章 附 則

- 第25条 本会は大学院薬学系研究科分子薬学・機能薬学・生命薬学専攻学生自治会と親密に連絡し共通の問題に関し話し合うために合同の集会をもつことができる。
- 第26条 施行細則は自治委員会がこれを定めることができる。
- 第27条 本規約は昭和43年10月31日を以て効力を発する。
昭和47年度、後期学生大会で改正案を提出し、その後の学生投票により改正された規約

17. 東京大学大学院薬学系研究院院生自治会規約

昭和33年 7月 改正

昭和39年 6月 改正

昭和52年 9月 改正

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京大学大学院薬学系研究科分子薬学・機能薬学・生命薬学専攻学生自治会と称する。
- 第2条 本会は会員の自治と総意により、その研究及び生活全般の充実向上をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的達成のために、必要な諸事業を行う。
- 第4条 本会は東京大学大学院薬学系研究科分子薬学・機能薬学及び生命薬学専攻の全学生を会員とする。

第2章 総 会

- 第5条 総会は本会の最高議決機関であって次の場合は委員長がこれを召集する。
- 1 委員会又は学年別クラス会の議決ある場合
 - 2 会員の5分の1以上の要求のある場合
- 第6条 総会は会員の2分の1以上の出席を以って成立し、その議決は出席会員の過半数の賛成を要する。但しあらかじめ明示された議題については委任状を認めるものとする。
- 第7条 委員会が必要と認めたとき、少なくとも前日に明示した議題について会員の投票を求め会員の過半数の賛成を得たときこれを総会の議決に代えることができる。

第3章 委 員 会

- 第8条 委員会は本会の運営に当たり、総会に対してその責任を負うものであって、次の場合に委員長がこれを召集する。
- 1 原則として月1回
 - 2 委員の5分の1以上の要求のある場合
 - 3 委員長が必要と認めた場合
- 第9条 委員会は、委員長1名、副委員長2名及び各学年専攻ごとに会員10名につき1名ずつ（但し端数は切り下げ）選出された委員を以って構成する。但し委員長、副委員長が委員中より選出された学年、専攻も委員の選出補充は行わない。
- 第10条 委員会は定員の2分の1以上の出席を以って成立し、その議決には出席委員の過半数の賛成を要する。但し、委員に事故あるときは代理委任を認める。

- 第11条 委員長，副委員長は会員よりの立候補者及び新委員の推薦した候補者より，会員の投票によって選出される。副委員長は委員長に事故あるときはその職務を代行する。
- 第12条 委員の任期は半年とし，後任の委員が選出されるまではその任を代行する。なお，改選期は4月及び10月とする。
- 第13条 委員会は各種専門委員を選出することができ，学部学生自治会と親密に連絡する。
- 第14条 委員会は規約実施上の細則を定めることができる。

第4章 会 計

- 第15条 会員は毎年4月，会費100円を納入すべきものとする。
- 第16条 会計の責任は委員会がこれを負う。

第5章 規約改正

- 第17条 本規約の改正には会員の過半数の賛成を要する。

18. 東京大学薬学部安全委員会規程

平成30年9月3日制定

(設置)

第1条 大学院薬学系研究科・薬学部（以下「研究科」という。）に、東京大学環境安全管理規則第6条の規定に基づき、大学院薬学系研究科・薬学部安全委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は研究科における環境安全と事故防止に関し、方策を討議し、その実現を図ることを任務とする。

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は研究科長が教授、准教授の中から指名する。委員長は会務を総括する。
2 副委員長は事務長とする。副委員長は委員長を補佐する。

(委員)

第4条 委員は各教室等から選出するものとする。
2 委員は、防火・防災、化学物質管理、産業医巡視対応、その他各教室等における環境安全を管理統括するものとする。

(委員会の開催)

第5条 委員会は、必要に応じ開催するものとする。

附 則

- 1 この規則は、平成30年9月3日から施行する。
- 2 薬学部安全委員会規程（昭和44年6月25日制定）は、廃止する。

制 定 理 由

東京大学環境安全管理規則に基づき、大学院薬学系研究科・薬学部における環境安全管理について審議するため、大学院薬学系研究科・薬学部安全委員会規程を制定する。

19. 日本学術振興会特別研究員

優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成確保に資することを目的として、大学院博士課程在学者及び大学院博士課程修了者等で、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を「特別研究員」に採用し、研究奨励金を支給する制度である。昭和60年度から新設された。

[募集要項] (参考：令和8年度(2026年度)採用分)

対象分野 人文・社会科学及び自然科学の全分野

応募資格 令和8年4月1日現在、次のいずれかに該当する者

(1) 大学院博士課程在学者 (DC1) :

令和8年4月1日現在、区分制の博士課程後期第1年次相当(在学月数12ヶ月未満)、薬学博士課程(4年制)2年次相当(在学月数12ヶ月以上24ヶ月未満)の在学者。応募時点において修士課程に在学する者等で、令和8年4月に博士課程後期等に進学する予定の者は応募資格を有する。

(2) 大学院博士課程在学者 (DC2) :

令和8年4月1日現在、区分制の博士課程後期第2年次相当(在学月数12ヶ月以上36ヶ月未満)、薬学博士課程(4年制)3年次以上相当(在学月数24ヶ月以上48ヶ月未満)の在学者

(3) 大学院博士課程修了者等 (PD) :

① 令和8年4月1日現在、博士の学位を取得後5年未満の者(申請時においては、見込でもよい)

[注] (ア) 日本国籍を持つ者、又は日本に永住を許可されている外国人が応募することができる。

(イ) 受入研究機関について、大学院博士課程在学当時の所属研究機関以外の研究機関を選定すること。また、受入研究者については、大学院博士課程在学当時の研究指導者以外を選定すること。(特例措置あり)

採用予定数 特別研究員－DC1:650～700名、DC2:1,050～1,100名

特別研究員－PD:約350名程度

採用期間 (1) 特別研究員－DC

① 大学院博士後期課程第1年次生、薬学博士課程2年次生...3年間

② 大学院博士後期課程第2年次生、薬学博士課程3年次生以上...2年間

(2) 特別研究員－PD...3年間

研究奨励金 (1) 大学院博士課程在学者 (DC) : 月額200,000円

(2) 大学院博士課程修了者等 (PD) : 月額362,000円

研究に従事する機関

- (1) 特別研究員－DCにあつては、在学する我が国の大学院研究科とする。
〔注〕大学院設置基準第13条の「研究指導の委託」により、他の大学院又は研究所等（外国の研究機関を含む。）において必要な研究を行うことができる。
- (2) 特別研究員－PDにあつては、我が国の次の機関とする。
- ① 大学及び大学共同利用機関
 - ② 文部科学省の施設等機関のうち学術研究を行うもの
 - ③ 高等専門学校
 - ④ 文部科学大臣が指定する機関
- 〔注〕(ア) 研究に従事する機関は、原則として年1回を上限として変更することができる。
- (イ) 研究上必要と認められる場合には、一定期間他の研究機関（外国の研究機関を含む。）においても研究を行うことができる。
ただし、外国の研究機関において研究を行う場合にあっては、採用期間の2/3以内とする。学生として留学することはできない。
- (ウ) 2024年度以降に新たに受け入れるPD、RPDは、原則として特任研究員として雇用します。

申請 5月中旬～下旬に機関を通じて翌年度の申請を受け付ける。申請手続、申請書類等の詳細については、日本学術振興会のホームページ (<http://www.jsps.go.jp/>) を参照のこと。

選考 書類選考および面接選考を行う。

研究費 特別研究員には、文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（特別研究員奨励費））の応募資格が与えられ、所定の審査を経て毎年度DC:80万円、PD:100万円（但し、採用時評価を参考にし、その必要性を認められた場合に限り150万円）以内の研究費が交付される。

〔特別研究員－RPDについて〕

特別研究員制度の一環として、学術研究分野における男女共同参画を推進する観点も踏まえ、優れた若手研究者が出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰する環境を整備するため、研究奨励金を一定期間支給し、研究活動再開を支援する特別研究員－RPDが平成18年度に創設された。

博士の学位取得者を対象としており、特別研究員－PDとの併願も可能。4月中旬以降に設定される申請締切に注意すること。詳細な申請資格、申請手続、申請書類等の詳細については、日本学術振興会のホームページ (<http://www.jsps.go.jp/>) を参照のこと。

20. 東京大学受託研究員

(目的)

この制度は、わが国の産業の進展に資するため、民間会社等の委託に応じ、当該民間会社等の現職技術者及び研究者に対し、国立大学法人東京大学における研究の機会を与え、その能力のいっそうの向上を図ることを目的として設けられた制度である。

(資格)

受託研究員として受け入れることのできる者は、現職技術者等であつて、大学院に入学することのできる者又は総長がこれらに準ずる学力があると認めた者とする。

(研究期間)

受託研究員の研究期間は、受入決定の日から1年以内とする。

研究期間は、部局長が指導教員の意見等を参考に研究期間の延長が必要であると認める場合には、延長することができる。

(研究料)

受託研究員の研究料は、以下のとおりとする。

6か月を超えて1年以内	567,100円
6か月以内	283,500円

(受入の申請手続方法)

本学部では受入許可希望日から前々月の末日までに申込書を提出するものとする。

21. 東京大学特別研究員

(目的)

本学で研究に従事する日本学術振興会特別研究員（DCを除く）及び日本学術振興会外国人特別研究員の身分や処遇、知的財産の取扱いを明確にし、研究活動をサポートすることを目的として平成20年10月1日より設けられた制度である。

(資格)

日本学術振興会特別研究員PD（DCから資格変更を行った者）及び日本学術振興会外国人特別研究員

(研究期間)

日本学術振興会が定める採用期間の範囲内で認める。

(研究料)

研究料は徴収しない。

(受入の際の手続き)

日本学術振興会からの採用内定通知があつたのち、受入れ承諾を受ける際に、部局長あてに本学が指定する誓約書を提出するものとする。

22. 英 訳 一 覧

東京大学

薬学部

113-0033

東京都文京区本郷7丁目3番1号

薬科学科

薬学科

学士 (薬科学)

学士 (薬学)

THE UNIVERSITY OF TOKYO

FACULTY OF PHARMACEUTICAL SCIENCES

3-1 Hongo 7-chome, Bunkyo-ku Tokyo

113-0033 Japan

Department of Pharmaceutical Sciences

Department of Pharmacy

Bachelor of Pharmaceutical Sciences

Bachelor of Pharmacy

薬学概論

有機化学

物理化学

分析化学

分子生物学

細胞生物学

機能生物学

機能形態学

薬理学

臨床薬理学

医薬品安全性学

薬物動態制御学

製剤設計学

医療薬学

医薬品情報学

放射化学

病理学

がん細胞生物学・バイオ医薬品

免疫学

微生物学・化学療法学

医薬化学

天然物化学

構造分子薬学

衛生化学

生物物理学

分子生理化学

発生遺伝学

Introduction to Pharmaceutical Sciences

Organic Chemistry

Physical Chemistry

Analytical Chemistry

Molecular Biology

Cell Biology

Functional Biology

Physiological Anatomy of Human Body

Pharmacology

Clinical Pharmacology

Toxicological Pharmacology

Pharmacokinetics

Pharmaceutics

Clinical Pharmacy

Drug Informatics

Radiation Chemistry

Pathology

Cancer Biology and Biopharmaceutical

Immunology

Microbiology and Chemotherapy

Medicinal Chemistry

Natural Product Chemistry

Molecular Structural Bio-Sciences

Health Chemistry

Biophysics

Molecular Physiological Chemistry

Developmental Genetics

創薬科学
生物統計学
公衆衛生学
医薬品評価科学
薬事法・特許法
疾患代謝学
薬学特別講義
インタラクティブ有機化学
薬学実習
薬学実務実習
薬学卒業実習

Drug Discovery and Development
Biostatistics
Public Health
Pharmaceutical Regulatory Science
Pharmaceutical Affairs Law and Patent Law
Metabolism and Disease
Special Lectures on Pharmaceutical Sciences
Interactive Organic Chemistry
Laboratory Works of Pharmaceutical Sciences
Practice for Clinical Pharmacy
Special Laboratory Works of
Pharmaceutical Sciences

23. 令和7(2025)年度 授業時間割表

④：薬科学科の必修 4：薬科学科の選択
 ⑥：薬学科の必修 6：薬学科の選択
 *：指定なし（履修できる科目単位は卒業要件の単位とはならない）

○2年生A1ターム（2026年度進学者）

西館1階・西講義室

	8:30~10:15	10:25~12:10	13:00~14:45	14:55~16:40	16:50~18:35
月					
火		(1011154) ④⑥ 分析化学Ⅰ [角田]	(1011149) ④⑥ 有機化学Ⅱ [尾谷]	(1011146) ④⑥ 分子生物学 [村田・濱崎]	
水		(1011153) ④⑥ 細胞生物学 [富田・福山・青木・河野]	(1011148) ④⑥ 有機化学Ⅰ [井上]	(1011158) ④⑥ 放射化学 [秋光]	
木		(1011114) ④⑥ 物理化学Ⅱ [角田]	(1011126) ④⑥ 機能形態学 [中嶋・他]	(1011113) ④⑥ 物理化学Ⅰ [竹内]	
金			(1011101) ④⑥ 薬学概論 [教務委員会]	(1012236) 4 6 生物統計学 [五十嵐]	

日程：授業 10月2日(木)～11月27日(木)
 【予備期間 なし】
 【修了試験 11月25日(火)～11月27日(木)】

月：10/6, 13, 20, 27 11/10, 17, 20 太字は祝日、下線は振替
 火：10/7, 14, 21, 28 11/4, 11, 18
 水：10/8, 15, 22, 29 11/5, 12, 19
 木：10/2, 9, 16, 23, 30 11/6, 13
 金：10/3, 10, 17, 24, 31 11/7, 14

○ 2年生A 2ターム (2026年度進学者)

西館1階・西講義室

	8:30~10:15	10:25~12:10	13:00~14:45	14:55~16:40	16:50~18:35
月					
火		(1011151) ④⑥ 有機化学Ⅳ 〔金井〕	(1011155) ④⑥ 分析化学Ⅱ 〔角田〕	(1011115) ④⑥ 物理化学Ⅲ 〔清水〕	
水		(1012127) 4⑥ 微生物学・ 化学療法学 〔堀(昌)・新藏・瀬戸 口〕	(1012233) 46 発生遺伝学 〔中嶋〕	(1011129) ④⑥ 薬理学Ⅰ 〔池谷〕	
木		(1011156) ④⑥ 機能生物学 〔後藤・川口・大石〕	(1011159) ④⑥ 病理学 〔富田・堀(由)〕	(1011147) ④⑥ 薬物動態制御学 〔楠原〕	
金			(1011150) ④⑥ 有機化学Ⅲ 〔内山・中島・鳥海〕	(1011301) ④* 創薬科学 〔金井・池谷・他〕	

日程：授業 11月28日(金)~2月9日(月)
 【予備期間 1月27日(火), 28日(水)】
 【修了試験 1月29日(木)~2月9日(月)】

月：12/1, 8, 15, 22 1/5, 19, 26
 火：12/2, 9, 16, 23 1/6, 13, 20
 水：12/3, 10, 17, 24 1/7, 14, 21
 木：12/4, 11, 18, 25 1/8, 15, 22
 金：12/5, 12, 19, 26 1/9, 16, 23

○ 3年生S1ターム (2025年度進学者)

南館1階・南講義室

	8:30~10:15	10:25~12:10	13:20~18:00
月		(1022203) 46 インタラクティブ有機化学 [金井・井上・尾谷・内山・ 阿部・森・浦野]	(1031106) 薬学実習Ⅰ ④⑥ [有機・薬化・天合・合成] 4月4日(金)~5月21日(水)
火		(1012304) 4* 構造分子薬学 [大戸・竹内]	(1031102) 薬学実習Ⅱ ④⑥ [天然・代謝・植物園・分析] 植物園 5月16日(金)
水		(1011130) ④⑥ 薬理学Ⅱ [池谷]	天然・代謝・分析 5月26日(月)~6月19日(木)
木			
金		(1012204) 46 免疫学 [堀(昌)・新藏・瀬戸口]	

日程：授業 4月4日(金)~6月3日(火)
 【予備期間 5月29日(木)】
 【修了試験 6月2日(月), 3日(火)】

月：4/7, 14, 21, 28 5/12, 19, 26
 火：4/8, 15, 22, 30 5/13, 20, 27 下線は振替
 水：4/9, 16, 23 5/7, 14, 21, 28
 木：4/10, 17, 24 5/1, 8, 15, 22
 金：4/4, 18, 25 5/2, 9, 16, 30

○ 3年生S2ターム (2025年度進学者)

南館1階・南講義室

	8:30~10:15	10:25~12:10	13:20~18:00
月		(1011160) ④⑥ 有機化学VI 〔浦野〕	(1031107) 薬学実習Ⅲ ④⑥ 〔物化・動態・構造〕 6月20日(金)～ 7月10日(木)
火		(1011152) ④⑥ 有機化学V 〔阿部・森〕	
水		(1012133) 4⑥ 衛生化学 〔河野〕	
木		(1012255) 46 がん細胞生物学 ・バイオ医薬品 〔後藤〕	
金		(1012132) 4⑥ 医薬品情報学 〔佐藤〕	

日程：授業 6月4日(水)～7月29日(火)
 【予備期間 7月24日(木), 25日(金)】
 【修了試験 7月28日(月), 29日(火)】

月：6/9, 16, 23, 30 7/7, 14, 23
 火：6/10, 17, 24 7/1, 8, 15, 22
 水：6/4, 11, 18, 25 7/2, 9, 16
 木：6/5, 12, 19, 26 7/3, 10, 17
 金：6/6, 13, 20, 27 7/4, 11, 18

下線は振替

○ 3年生A1ターム (2025年度進学者)

南館1階・南講義室

	8:30~10:15	10:25~12:10	13:20~18:00
月		(1012230) 46 分子生理化学 〔北川・齋藤〕	(1012134) 薬学特別講義 4⑥ (第1回)・生命・医療倫理学 10月2日(木) (14:00~15:45) (第2回)・研究倫理 11月5日(水) (13:20~15:05) (第3回)・医療コミュニケーション 11月6日(木) (13:20~15:05) (第4回)・薬害被害者の声(サリドマイド) 11月18日(火) (13:20~15:05) (第5回)・動物実験倫理 11月18日(火) (15:20~17:05) (第6回)・薬害被害者の声(薬害肝炎) 11月20日(木) (13:20~15:05)
火		(1011157) ④⑥ 医療薬学 〔高田・山梨〕	
水		(1012402) ④6 医薬化学Ⅱ 〔阿部・森・尾谷・夏莉〕	
木		(1012136) 4⑥ 疾患代謝学 〔青木・村田・河野・濱崎〕	(1031104) 薬学実習Ⅳ ④⑥ 〔免疫・生理・遺伝・分子・衛生〕 10月3日(金)~12月4日(木)
金		(1012401) ④6 医薬化学Ⅰ 〔金井・井上〕	(1031111) 薬学実務実習Ⅰ ④⑥ 〔医学部附属病院薬剤部〕 10月10日(金)~10月16日(木)

日程：授業 10月2日(木)~11月27日(木)
 【予備期間 なし】
 【修了試験 11月25日(火)~11月27日(木)】

月：10/6, 13, 20, 27 11/10, 17, 20 太字は祝日、下線は振替
 火：10/7, 14, 21, 28 11/4, 11, 18
 水：10/8, 15, 22, 29 11/5, 12, 19
 木：10/2, 9, 16, 23, 30 11/6, 13
 金：10/3, 10, 17, 24, 31 11/7, 14

○ 3年生A2ターム (2025年度進学者)

南館1階・南講義室

	8:30~10:15	10:25~12:10	13:20~18:00
月		(1011302) ④* 医 薬 化 学 III 〔内山・浦野〕	(1031105) 薬学実習 V ④⑥ 〔病態・薬作・細情・蛋白〕 12月15日(月)~1月26日(月)
火		(1012135) 4⑥ 天 然 物 化 学 〔阿部・森・野口〕	
水		(1012128) 4⑥ 製 剤 設 計 学 〔楠原・他〕	
木		(1012227) 46 生 物 物 理 学 〔清水・竹内・岡部〕	
金		(1012104) 4⑥ 医 薬 品 安 全 性 学 〔細野・苅谷〕	

日 程：授 業 11月28日(金)~2月 9日(月)
 【予備期間 1月27日(火), 28日(水)】
 【修了試験 1月29日(木)~2月 9日(月)】

月：12/1, 8, 15, 22 1/5, 19, 26
 火：12/2, 9, 16, 23 1/6, 13, 20
 水：12/3, 10, 17, 24 1/7, 14, 21
 木：12/4, 11, 18, 25 1/8, 15, 22
 金：12/5, 12, 19, 26 1/9, 16, 23

○ 4年生S1ターム（2024年度進学者） 西館1階・西講義室

	8:30~10:15	10:25~12:10
月		
火		(1012129) 4⑥ 薬事法・特許法 〔 <u>小野</u> ・榊田〕
水		(1012126) 4⑥ 公衆衛生学 〔 <u>五十嵐</u> 〕
木		(1013101) *⑥ 臨床薬理学 〔 <u>楠原</u> ・荒川・他〕
金		(1012130) 4⑥ 医薬品評価科学 〔 <u>小野</u> ・他〕

日程：授業 4月4日(金)～6月3日(火)
 【予備期間 5月29日(木)】
 【修了試験 6月2日(月), 3日(火)】

月：4/7, 14, 21, 28 5/12, 19, 26
 火：4/8, 15, 22, 30 5/13, 20, 27 下線は振替
 水：4/9, 16, 23 5/7, 14, 21, 28
 木：4/10, 17, 24 5/1, 8, 15, 22
 金：4/4, 18, 25 5/2, 9, 16, 30

○4年生～6年生

(1033102)

薬学実習Ⅵ ⑥

[各教室]

(1033111) 2024進

薬学実務実習Ⅱ ⑥

[細野・他]

・11月4日(火)～1月9日(金)

(1033120) 2024進

薬学実務実習Ⅳ ⑥

[佐藤]

・2月16日(月)～5月3日(日)

(1033112) 2023進

薬学実務実習Ⅲ ⑥

[荻谷・他]

・5月19日(月)～8月3日(日)

(1031191)

薬学卒業実習 ④⑥

[各教室]

24. 卒業生の進路状況

本学部出身者の社会評価はきわめて高く、製薬会社はもとより、重化学工業系会社、官公立研究所、大学教職など多方面に進出しており、過去140余年の歴史を通して、景気の変動に左右されぬ安定した就職状況を保持している。ことに近年は化学工業方面からの求人が増加している。

事 項	2021年度		2022年度		2023年度	
	薬科学科	薬学科	薬科学科	薬学科	薬科学科	薬学科
卒 業 者	78(30)	10(8)	77(14)	8(4)	76(23)	10(9)
進 入 学 等	75(28)	4(2)	72(13)	1	70(19)	2(1)
東京大学薬学系研究科修士課程	69(27)		72(13)		67(19)	
東京大学薬学系研究科薬学博士課程		2(1)		1		1(1)
東京大学他研究科修士課程等	1				1	
外国の大学						
他大学修士課程等	1					
他大学博士課程等		1(1)				
東京大学薬学部薬学科学士入学	1					
他大学学士入学等	2	1			1	
東京大学薬学部研究生	1(1)				1(1)	
東京大学医学部附属病院薬剤部研修生						
その他					1	1
就 職	3(2)	6(6)	4(1)	5(3)	4(3)	8(8)
病院薬剤部・薬局						3(3)
官公庁	1(1)	2(2)	1(1)			2(2)
医薬関係	1(1)	3(3)		4(3)		2(2)
その他	1	1(1)	3	1	4(3)	1(1)
そ の 他			1		1	

() は女子で内数